

歩掛参考見積募集要領

次のとおり歩掛参考見積を募集します。

令和7年1月14日

独立行政法人水資源機構
旧吉野川河口堰管理所
所長 犬童 眞二

1. 目的

この歩掛参考見積の募集は、旧吉野川河口堰等大規模地震対策事業で予定している工事の積算の参考とするための施工歩掛等の見積を募集するものです。

2. 参考見積書提出の資格

- (1) 水資源機構における令和5・6年度一般競争(指名競争)参加資格業者の認定を受けていることとします。
- (2) 営業に関し法律上必要とされる資格を有していることとします。
- (3) 水資源機構から「工事請負契約に係る指名停止等の措置要領」(平成6年5月31日付け6経契第443号)に基づき、吉野川水系関連区域において指名停止を受けていないこととします。

3. 参考見積書の提出等

参考見積書は、次に従い提出してください。

- (1) 参考見積書は、作業項目毎に必要な作業員、資機材の人数等を記載して提出して下さい。
なお、参考見積書の様式は問いません。
- (2) 提出期間：令和7年1月14日(火)から令和7年1月30日(木)まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、午前9時から午後5時まで
- (3) 提出先
独立行政法人水資源機構 旧吉野川河口堰管理所長 犬童 眞二 宛
【担当】事務グループ 辰田(たつた)
〒771-0144 徳島県徳島市川内町榎瀬841番地
TEL 088-665-1435 FAX 088-665-1374
- (4) 提出方法
書面はメール、持参、郵送又はファクシミリ(社印があること)により提出するものとします。
- (5) 見積有効期限
見積有効期限は、令和8年3月31日までとしてください。

4. 参考見積内容

- (1) 別紙-1 見積仕様書
- (2) 別紙-2 見積記入様式(例)
- (3) 別紙-3 参考資料(図面)

5. 募集要領に対する質問

この募集要領に対する質問がある場合においては、次に従い、書面（様式は自由）により提出してください。

- (4) 提出期間：令和7年1月14日(火) から令和7年1月23日(木) まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、午前9時から午後5時まで
- (5) 提出場所：3. (3) に同じ。
- (6) 提出方法：3. (4) に同じ。

6. 質問に対する回答

質問に対する回答書は、次のとおり閲覧に供します。

- (1) 閲覧期間：令和7年1月27日(月) から令和7年1月30日(木) まで
- (2) 閲覧方法：ホームページに掲載します。

7. 参考見積書作成及び提出に要する費用

参考見積提出者の負担とします。

8. ヒアリング

提出していただいた参考見積書についてヒアリングを実施することがあります。

9. その他

この参考見積書をご提出いただいたことで、工事の指名又は競争参加資格をお約束するものではありません。

ご提出いただいた参考見積書は、工事積算の目的以外には使用いたしません。

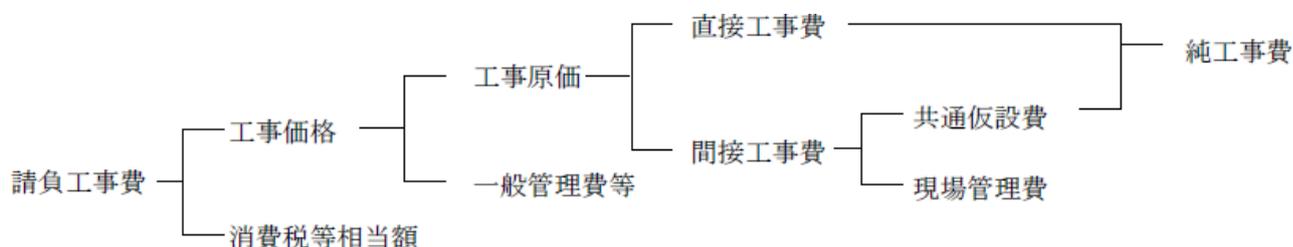
見積仕様書

1. 概要

この参考見積仕様書は、旧吉野川河口堰管理所管内の耐震補強工事の積算にあたり必要な施工単価等についての見積依頼に適用するものであり、間接工事費等については、独立行政法人水資源機構(以下「機構」という。)が定める「積算基準及び積算資料(土木工事編)」に基づくものとします。

2. 積算体系

本工事内容の構成は次の一般土木に準ずるものとします。今回の歩掛見積は次の直接工事費のうち、各耐震補強工法に係る作業に従事する作業員、資機材の人数等を見積徴取するものです。作業員の職種と定義については、「公共工事設計労務単価」によるものとします。



※一般管理費等とは、工事施工にあたる企業の継続運営に必要な費用をいい、一般管理費及び付加利益からなる。間接工事費は、①共通仮設費と②現場管理費からなり、①は運搬費、準備費、事業損失防止施設費、安全費、役務費、技術管理費、営繕費からなる。②は、工事施工にあたって、工事を管理するために必要な共通仮設費以外の経費とします。

3. 見積様式

見積様式は、自由です。見積の内訳は、別紙－ 2 を参考にしてください。

4. 見積内容

・PCM工法(PP工法)

既設構造物(堰)の耐震補強をPCM工法(PP工法)にて実施するものとします。

見積は、PCM工法協会の発行する「PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案)2023年5月」に準じた施工内容により、算出してください。

なお、施工に伴う資機材費及び部品等については、可能な限りそれぞれ計上してください。

5. 見積有効期限

見積有効期限は、令和8年3月31日までとしてください。

以上

コンクリートはつり t=65mm

1m2当たり

名称	単価	歩掛	備考
土木一般世話役	26,400 円	人	徳島県
特殊作業員	23,300 円	人	徳島県
普通作業員	21,900 円	人	徳島県
空気圧縮機 吐出量5.0m3/min	円	日	
雑費及び消耗品	一式	%	労務費の %
合計			

ポリマーセメントモルタル 下塗り 横方向 t=1mm

100m2当たり

名称	単価	歩掛	備考
土木一般世話役	26,400 円	人	
左官工	25,000 円	人	
特殊作業員	23,300 円	人	
普通作業員	21,900 円	人	
発動発電機 2kVA(ガソリン含む)	円	日	
コンプレッサー 200V,0.75kW,75L/min	円	日	
〃 0.4m3/min	円	日	
雑費及び消耗品	一式	%	労務費の %
合計			

ポリマーセメントモルタル 不陸修正 横方向 t=10mm

100m2当たり

名称	単価	歩掛	備考
土木一般世話役	26,400 円	人	
左官工	25,000 円	人	
特殊作業員	23,300 円	人	
普通作業員	21,900 円	人	
発動発電機 37kVA(軽油含む)	円	日	
〃 15KVA・17kw	円	日	
〃 2KV	円	日	
コンプレッサー 200V,5.5kW,630L/min	円	日	
〃 1.4m3/min	円	日	
〃 0.4m3/min	円	日	
モルタルミキサー 100ℓタイプ	円	日	
雑費及び消耗品	一式	%	労務費の %
合計(円)			

エンクローズ溶接(治具内シールド方式) SD345 D19,22,25,29,32

100箇所当たり

名称	単価	歩掛	備考
土木一般世話役	26,400 円	人	
溶接工	26,900 円	人	
普通作業員	21,900 円	人	
雑費及び消耗品	一式	%	労務費の %
合計(円)			

ポリマーセメントモルタル 増厚 吹付 横方向 t=39,44,54,59,64mm

100m2当たり

名称	単価	歩掛	備考
土木一般世話役	26,400 円	人	
左官工	25,000 円	人	
特殊作業員	23,300 円	人	
普通作業員	21,900 円	人	
発動発電機 37kVA(軽油含む)	円	日	
〃 15KVA・17kw	円	日	
〃 2KV	円	日	
コンプレッサー 200V,5.5kW,630L/min	円	日	
〃 1.4m3/min	円	日	
〃 0.4m3/min	円	日	
モルタルミキサー インバーター式	円	日	
〃 100ℓタイプ	円	日	
モルタルポンプ 200V,3.7kw	円	日	
〃 3.0~4.0kw	円	日	
高圧ホース、チューブほか	円	日	
雑費及び消耗品	一式	%	労務費の %
合計(円)			

ポリマーセメントモルタル 増厚 左官 横方向 t=39,44,54,59,64mm

100m2当たり

名称	単価	歩掛	備考
土木一般世話役	26,400 円	人	
左官工	25,000 円	人	
特殊作業員	23,300 円	人	
普通作業員	21,900 円	人	
発動発電機	37kVA(軽油含む)	円	日
〃	15KVA・17kw	円	日
〃	2KV	円	日
コンプレッサー	200V,5.5kW,630L/min	円	日
〃	1.4m3/min	円	日
〃	0.4m3/min	円	日
モルタルミキサー	インバーター式	円	日
〃	100ℓタイプ	円	日
モルタルポンプ	200V,3.7kw	円	日
〃	3.0~4.0kw	円	日
高圧ホース、チューブほか	円	日	
雑費及び消耗品	一式	%	労務費の %
合計(円)			

養生工

100m2当たり

名称	単価	歩掛	備考
土木一般世話役	26,400 円	人	
普通作業員	21,900 円	人	
雑費及び消耗品	一式	%	労務費の %
合計(円)			

材料費

名称	単価
エポキシ樹脂	ホルメイトEP-1200 円/kg
マグネライン	タイプ I 円/kg
マグネライン	タイプ II 円/kg
サドルバンド	D19用 円/枚
サドルバンド	D22用 円/枚
サドルバンド	D25用 円/枚
サドルバンド	D29用 円/枚
サドルバンド	D32用 円/枚
プレスアンカー	φ6×45 円/本

河口堰門柱耐震対策工事（仮称）

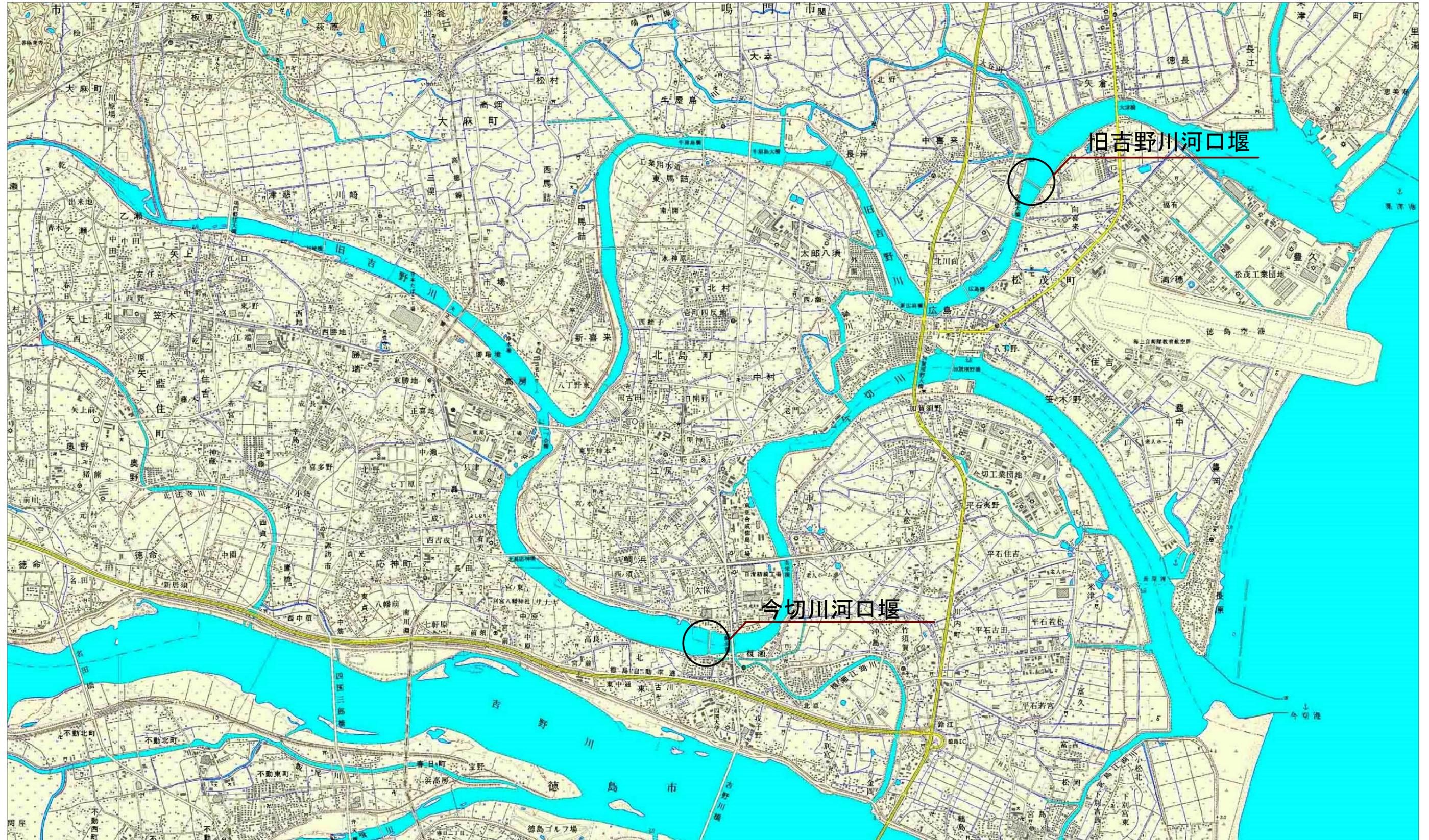
見積参考資料

令和 7 年 1 月

独立行政法人 水資源機構

旧吉野川河口堰管理所

位置図



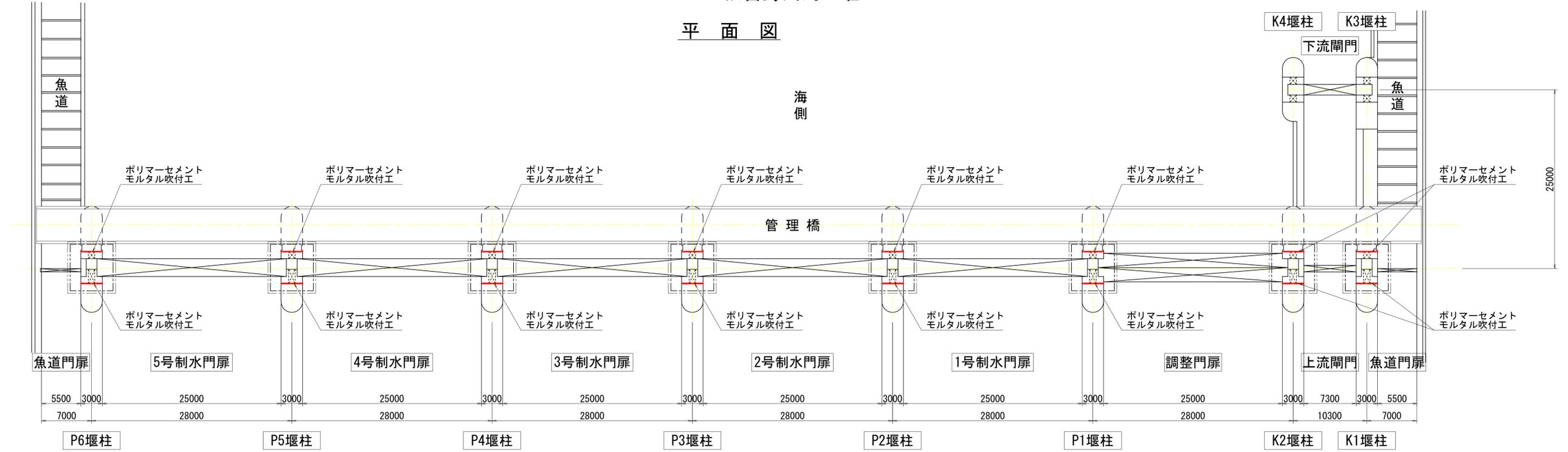
工事名 河口堰門柱耐震対策工事（仮称）	
名称	位置図
登録番号	整理番号
独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所	

平面図

S=1:300

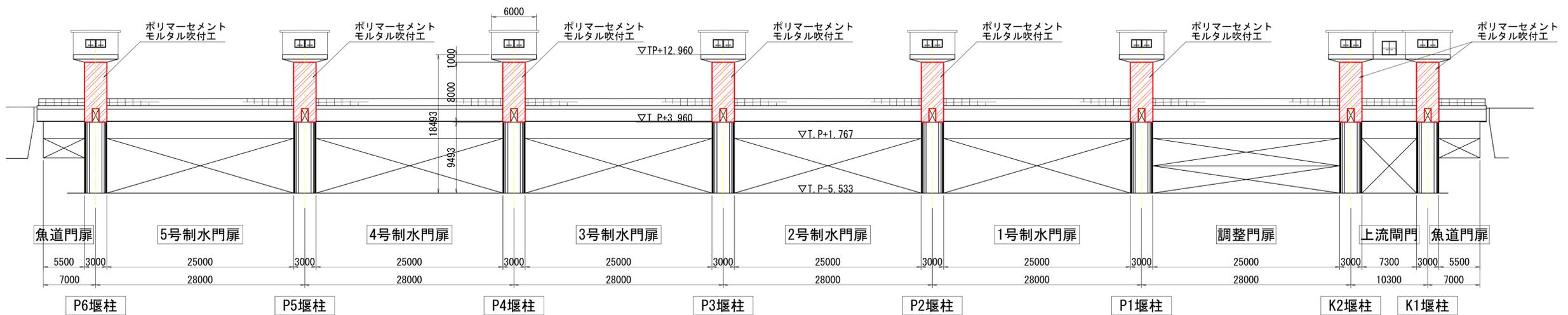
旧吉野川河口堰

平面図



河側

正面図



旧吉野川河口堰

工事名 河口堰門柱耐震対策工事 (仮称)

名称 平面図

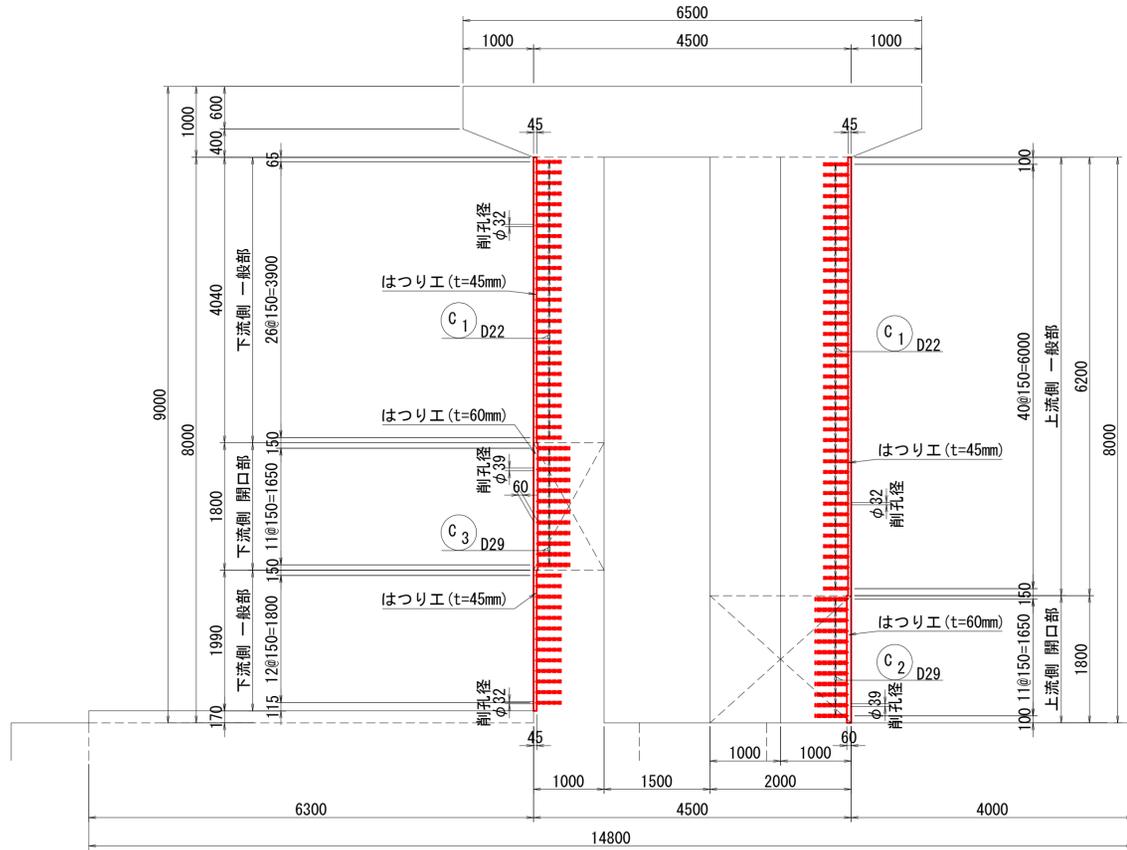
登録番号 整理番号

独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所

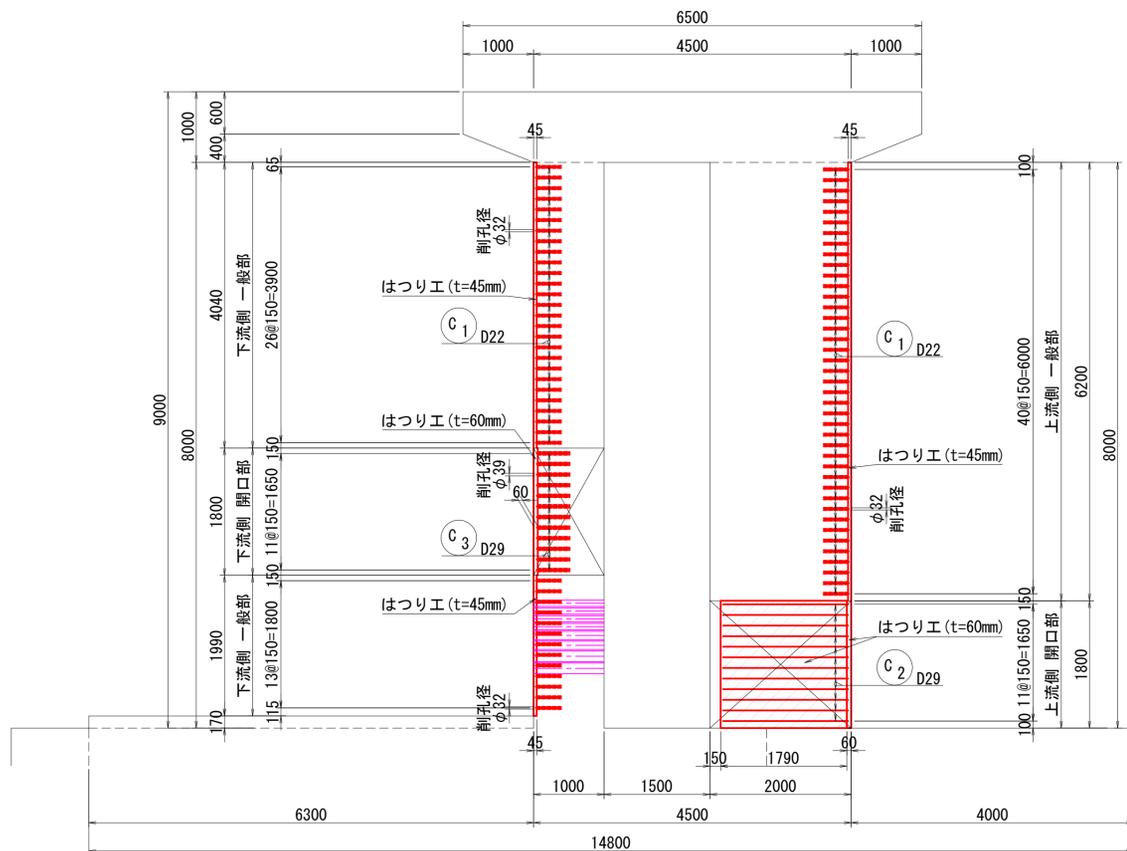
上流閘門(K1・K2堰柱)補強詳細図(1) S=1:50

旧吉野川河口堰 門柱 C-C

A-A



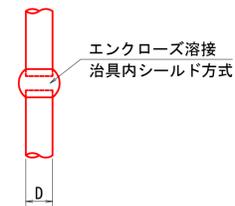
B-B



水流方向

水流方向

鉄筋継手工



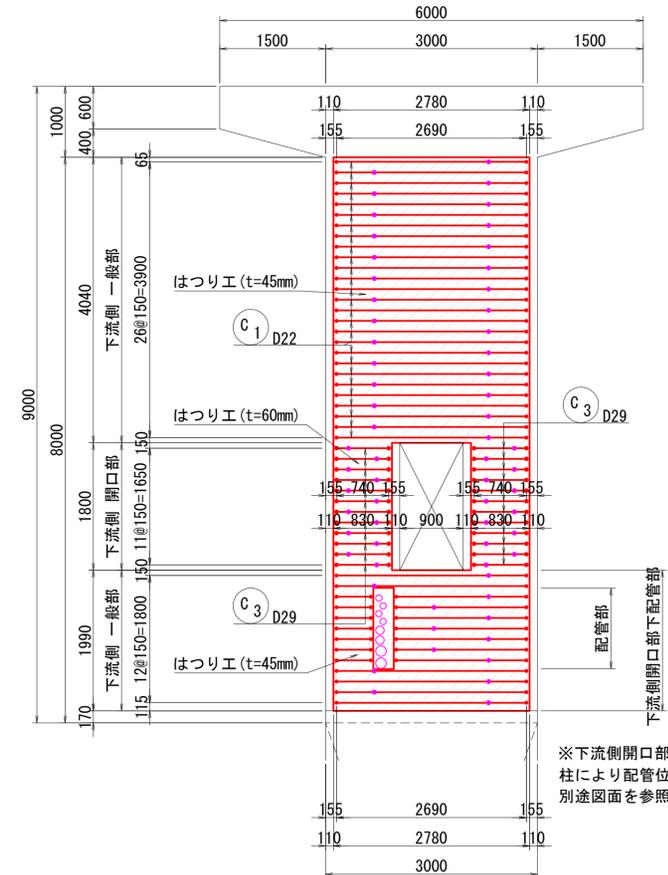
凡例

	ポリマーセメントモルタル吹付工・はつり工
	鉄筋継手位置(エンクローズ溶接)

特記事項

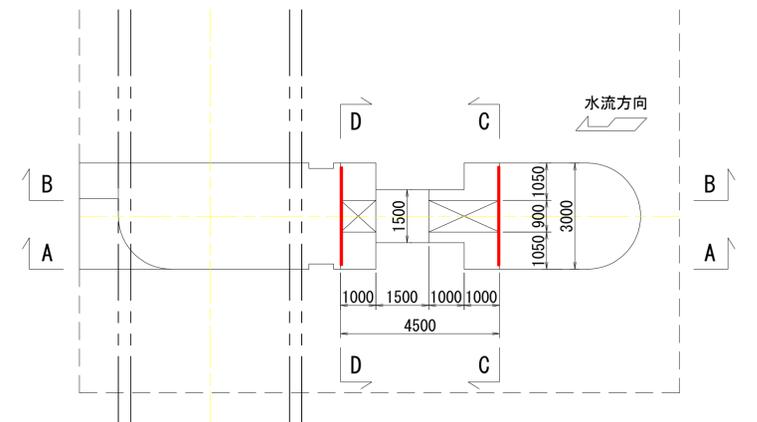
- 施工は鉄筋探索を行い、既設鉄筋の位置を確認の上で行うこと。
- 削孔位置が既設鉄筋等に干渉する場合は、施工時に現場にて削孔位置を調整すること。削孔位置を調整する場合は、以下の鉄筋間隔を守り、位置の調整を行う。
 - 門柱のポリマーセメントモルタル吹付工のせん断補強筋は、150mmピッチの間隔内に設置すること。また、既設軸方向鉄筋端部と端部から2番目の軸方向鉄筋との間に設置するものとし位置を調整すること。
- アンカー筋設置の際は、既設鉄筋に損傷を与えないよう注意すること。
- 工事に支障となる添加物等は撤去を行い、補強対策後は適切に復旧すること。
- せん断補強筋は既設コンクリート面に取付金具を用いて固定すること。
- せん断補強筋の継ぎ手はエンクローズ溶接とし、継ぎ手位置は千鳥配置とすること。
- 鉄筋の加工は現地で計測後に行うこと。
- 「PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案) 2023年5月」に規定されている材料及び施工方法と同等品以上とすること

D-D



※下流側開口部下の配管部は各門柱により配管位置が異なるため、別途図面を参照すること。

KEYPLAN



【構造細目】

- 削孔位置：軸方向鉄筋の真ん中で壁外からラウンド
- 削孔径：鉄筋径+10mm
- 削孔長：L=15・D
- 鉄筋かぶり：最小かぶり14mm、軸方向及び横方向鉄筋以上 (PP工法)
- 既設Co取壊し範囲：吹付工法の必要かぶり厚

旧吉野川河口堰

工事名 河口堰門柱耐震対策工事 (仮称)

名称 上流閘門(K1・K2堰柱)補強詳細図(1)

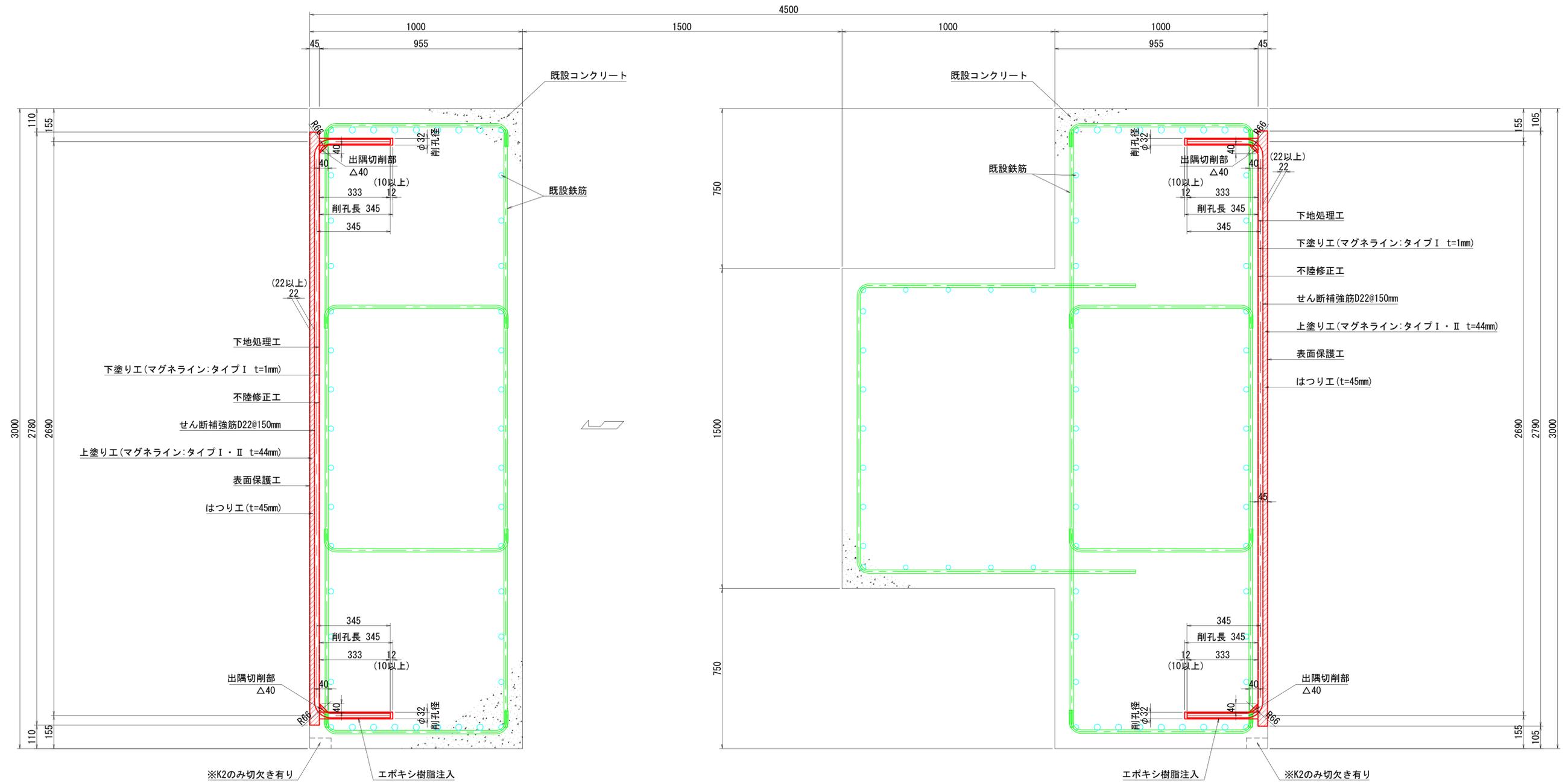
登録番号 整理番号

独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所

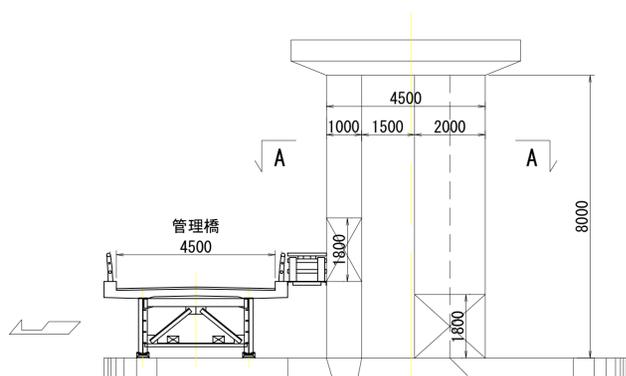
上流閘門(K1・K2堰柱)補強詳細図(2) S=1:10

旧吉野川河口堰 門柱一般部

A-A



KEYPLAN



特記事項

1. 施工は鉄筋探索を行い、既設鉄筋の位置を確認の上で行うこと。
2. 削孔位置が既設鉄筋等に干渉する場合は、施工時に現場にて削孔位置を調整すること。
削孔位置を調整する場合は、以下の鉄筋間隔を守り、位置の調整を行う。
・門柱のポリマーセメントモルタル吹付工のせん断補強筋は、150mmピッチの間隔内に設置すること。また、既設軸方向鉄筋端部と端部から2番目の軸方向鉄筋との間に設置するものとし位置を調整すること。
3. アンカー筋設置の際は、既設鉄筋に損傷を与えないよう注意すること。
4. 工事に支障となる添加物等は撤去を行い、補強対策後は適切に復旧すること。
5. せん断補強筋は既設コンクリート面に取付金具を用いて固定すること。
6. せん断補強筋の継ぎ手はエンクローズ溶接とし、継ぎ手位置は千鳥配置とすること。
7. 鉄筋の加工は現地で計測後に行うこと。
8. 「PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案) 2023年5月」に規定されている材料及び施工方法と同等品以上とすること

【構造細目】

削孔位置：軸方向鉄筋の真ん中で壁外からラウンド
削孔径：鉄筋径+10mm
削孔長：L=15・D
鉄筋かぶり：最小かぶり14mm、軸方向及び横方向鉄筋以上 (PP工法)
既設Co取壊し範囲：吹付工法の必要かぶり厚

旧吉野川河口堰

工事名 河口堰門柱耐震対策工事 (仮称)

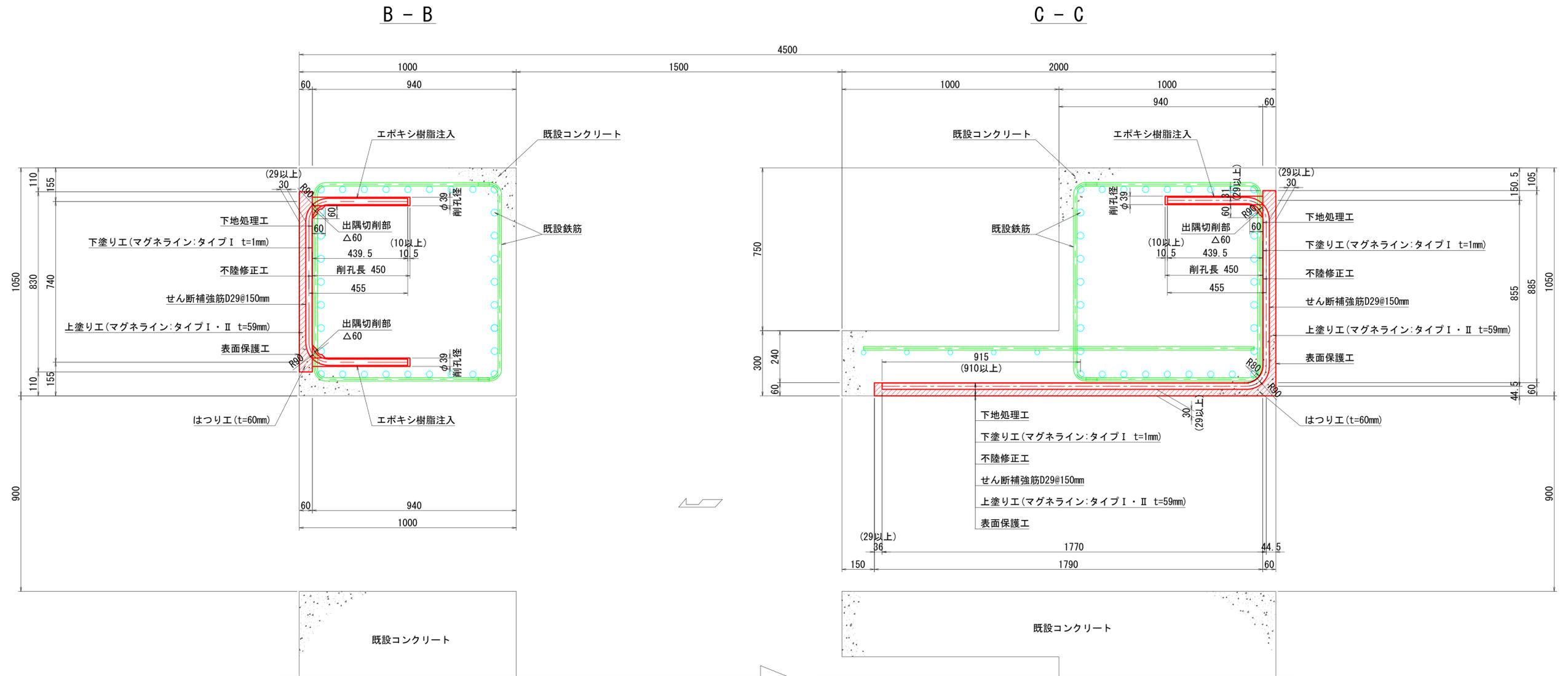
名称 上流閘門(K1・K2堰柱)補強詳細図(2)

登録番号 整理番号

独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所

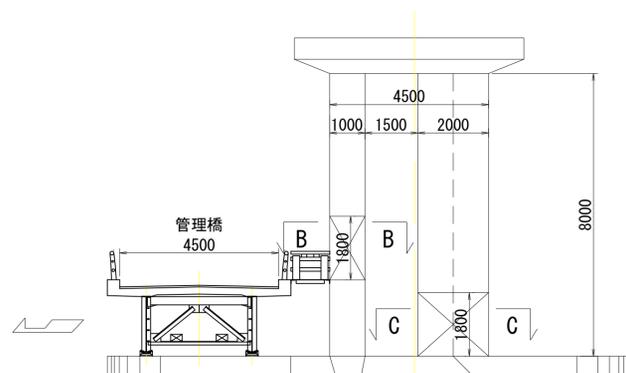
上流閘門(K1・K2堰柱)補強詳細図(3) S=1:10

旧吉野川河口堰 門柱開口部



※左右対称のため省略する。

KEYPLAN



特記事項

1. 施工は鉄筋探索を行い、既設鉄筋の位置を確認の上で行うこと。
2. 削孔位置が既設鉄筋等に干渉する場合は、施工時に現場にて削孔位置を調整すること。
削孔位置を調整する場合は、以下の鉄筋間隔を守り、位置の調整を行う。
・門柱のポリマーセメントモルタル吹付工のせん断補強筋は、150mmピッチの間隔内に設置すること。また、既設軸方向鉄筋端部と端部から2番目の軸方向鉄筋との間に設置するものとし位置を調整すること。
3. アンカー筋設置の際は、既設鉄筋に損傷を与えないよう注意すること。
4. 工事に支障となる添加物等は撤去を行い、補強対策後は適切に復旧すること。
5. せん断補強筋は既設コンクリート面に取付金具を用いて固定すること。
6. せん断補強筋の継ぎ手はエンクローズ溶接とし、継ぎ手位置は千鳥配置とすること。
7. 鉄筋の加工は現地で計測後に行うこと。
8. 『PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案) 2023年5月』に規定されている材料及び施工方法と同等品以上とすること

【構造細目】

削孔位置：軸方向鉄筋の真ん中で壁外からラウンド
削孔径：鉄筋径+10mm
削孔長：L=15・D
鉄筋かぶり：最小かぶり14mm、軸方向及び横方向鉄筋以上 (PP工法)
既設Co取壊し範囲：吹付工法の必要かぶり厚

旧吉野川河口堰

工事名 河口堰門柱耐震対策工事 (仮称)

名称 上流閘門(K1・K2堰柱)補強詳細図(3)

登録番号 整理番号

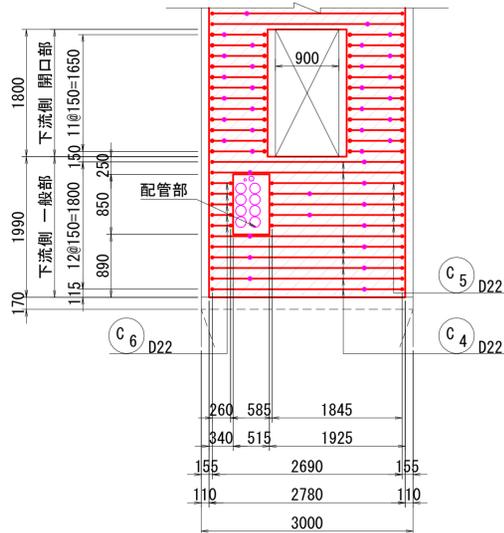
独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所

上流閘門(K1・K2堰柱)補強詳細図(4) S=1:50

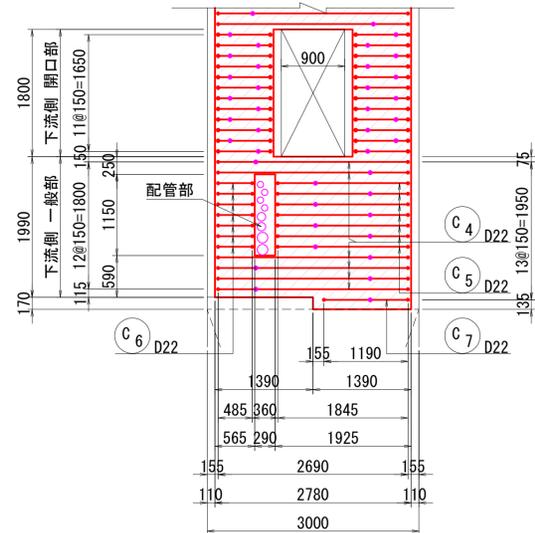
旧吉野川河口堰 門柱

門柱下流側開口部下配管部

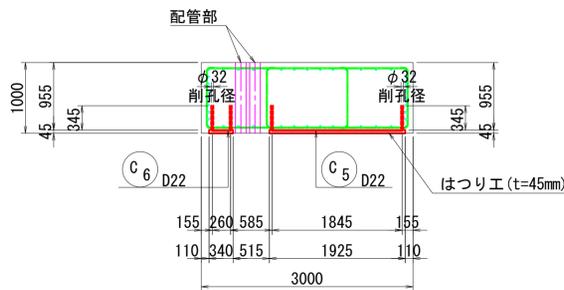
K1堰柱
正面図



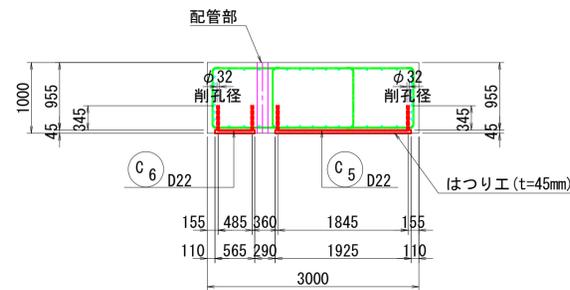
K2堰柱
正面図



平面図

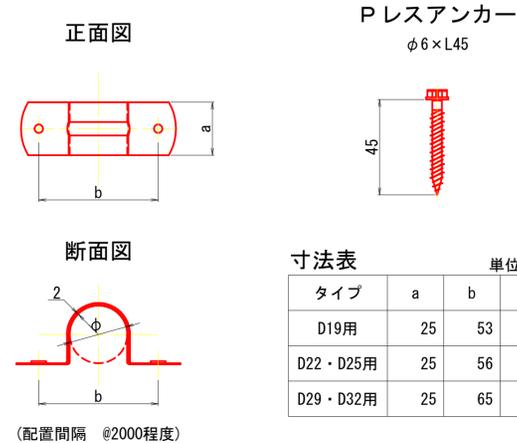


平面図



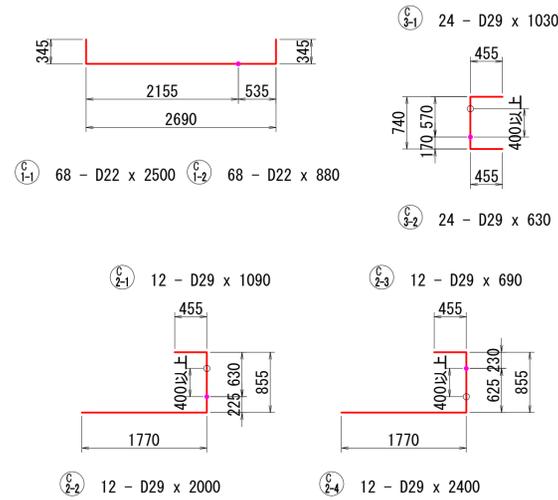
※配管の位置及び径は、現地踏査時に計測したものであるため、工事に先立ち配管位置等を計測の上、耐震補強工事を行うこと。

主筋取付金具詳細図



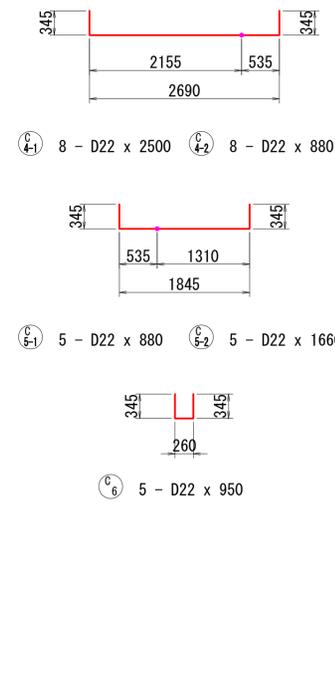
鉄筋加工図

K1・K2堰柱共通

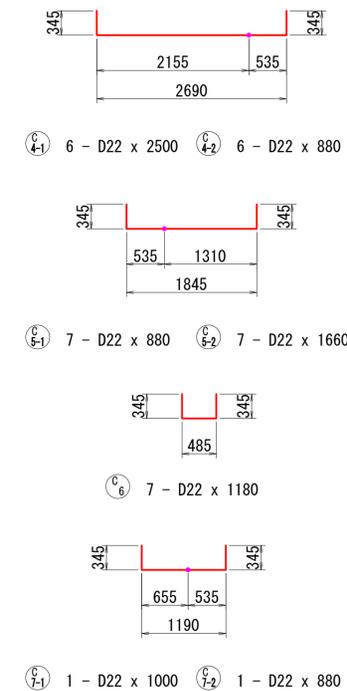


門柱下流側開口部下配管部

K1堰柱



K2堰柱



凡例

	ポリマーセメントモルタル吹付工・はつり工
	鉄筋継手位置(エンクローズ溶接)

鉄筋表 K1堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	2500	68	3.040	7.60	517	└┘
1-2	D22	880	68	3.040	2.68	182 (68)	└┘
2-1	D29	1090	12	5.040	5.49	66	└┘
2-2	D29	2000	12	5.040	10.08	121 (12)	└┘
2-3	D29	690	12	5.040	3.48	42	└┘
2-4	D29	2400	12	5.040	12.10	145 (12)	└┘
3-1	D29	1030	24	5.040	5.19	125	└┘
3-2	D29	630	24	5.040	3.18	76 (24)	└┘
4-1	D22	2500	8	3.040	7.60	61	└┘
4-2	D22	880	8	3.040	2.68	21 (8)	└┘
5-1	D22	880	5	3.040	2.68	13	└┘
5-2	D22	1660	5	3.040	5.05	25 (5)	└┘
6	D22	950	5	3.040	2.89	14	└┘
				D29		575 kg	
				D22		833 kg	
				合計		1408 kg	
				D29 エンクローズ溶接		48 箇所	
				D22 エンクローズ溶接		81 箇所	

鉄筋表 K2堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	2500	68	3.040	7.60	517	└┘
1-2	D22	880	68	3.040	2.68	182 (68)	└┘
2-1	D29	1090	12	5.040	5.49	66	└┘
2-2	D29	2000	12	5.040	10.08	121 (12)	└┘
2-3	D29	690	12	5.040	3.48	42	└┘
2-4	D29	2400	12	5.040	12.10	145 (12)	└┘
3-1	D29	1030	24	5.040	5.19	125	└┘
3-2	D29	630	24	5.040	3.18	76 (24)	└┘
4-1	D22	2500	6	3.040	7.60	46	└┘
4-2	D22	880	6	3.040	2.68	16 (6)	└┘
5-1	D22	880	7	3.040	2.68	19	└┘
5-2	D22	1660	7	3.040	5.05	35 (7)	└┘
6	D22	1180	7	3.040	3.59	25	└┘
7-1	D22	1000	1	3.040	2.68	19	└┘
7-2	D22	880	1	3.040	5.05	35 (1)	└┘
				D29		575 kg	
				D22		846 kg	
				合計		1421 kg	
				D29 エンクローズ溶接		48 箇所	
				D22 エンクローズ溶接		82 箇所	

旧吉野川河口堰

工事名 河口堰門柱耐震対策工事 (仮称)

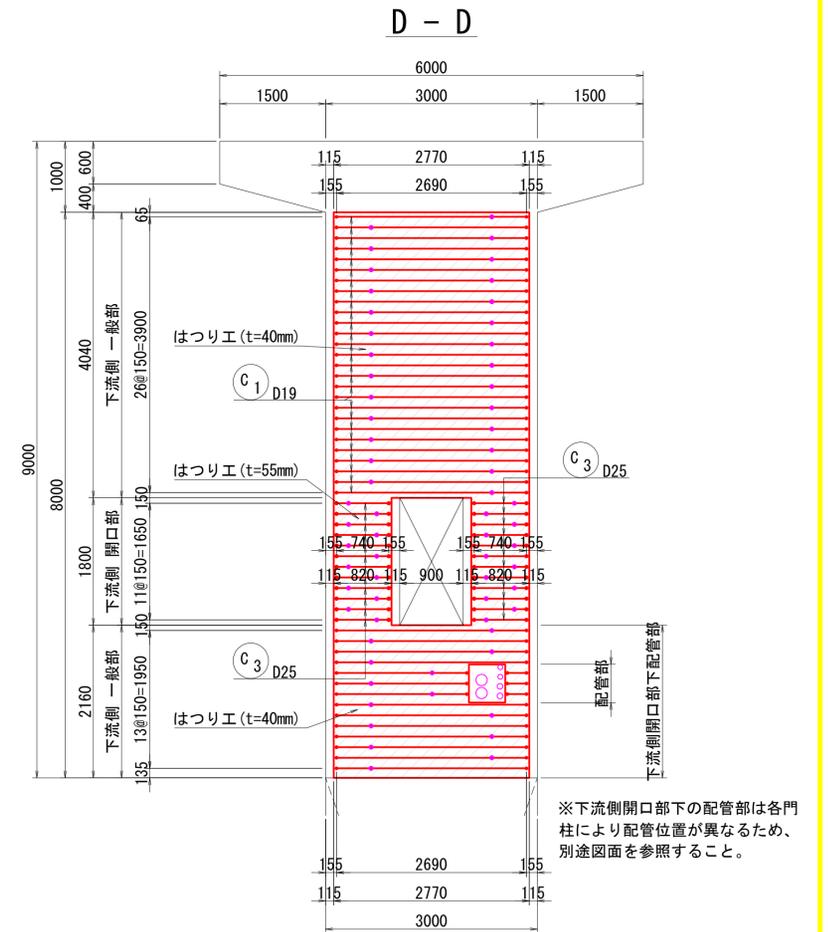
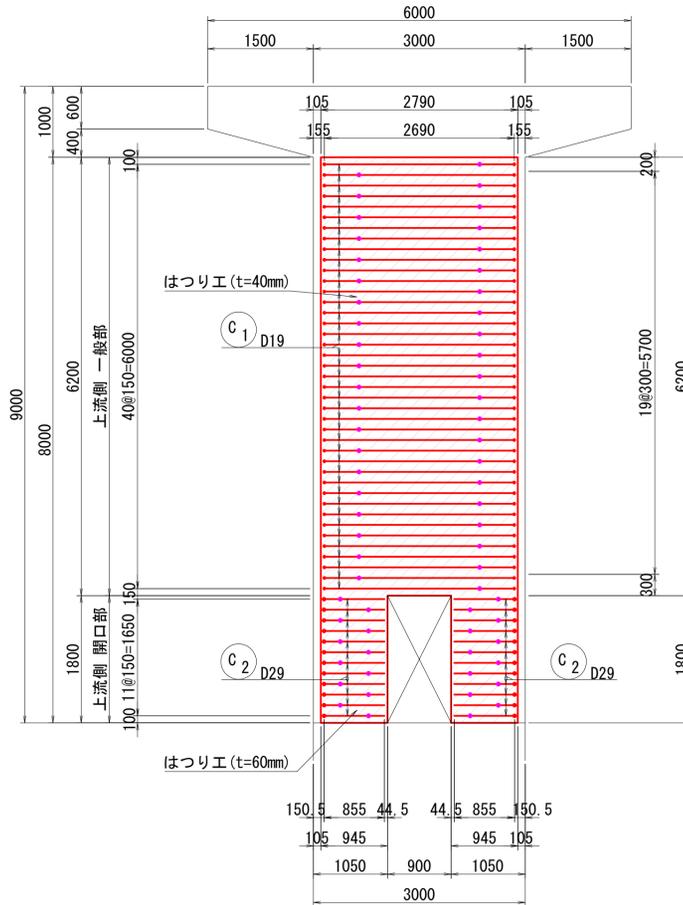
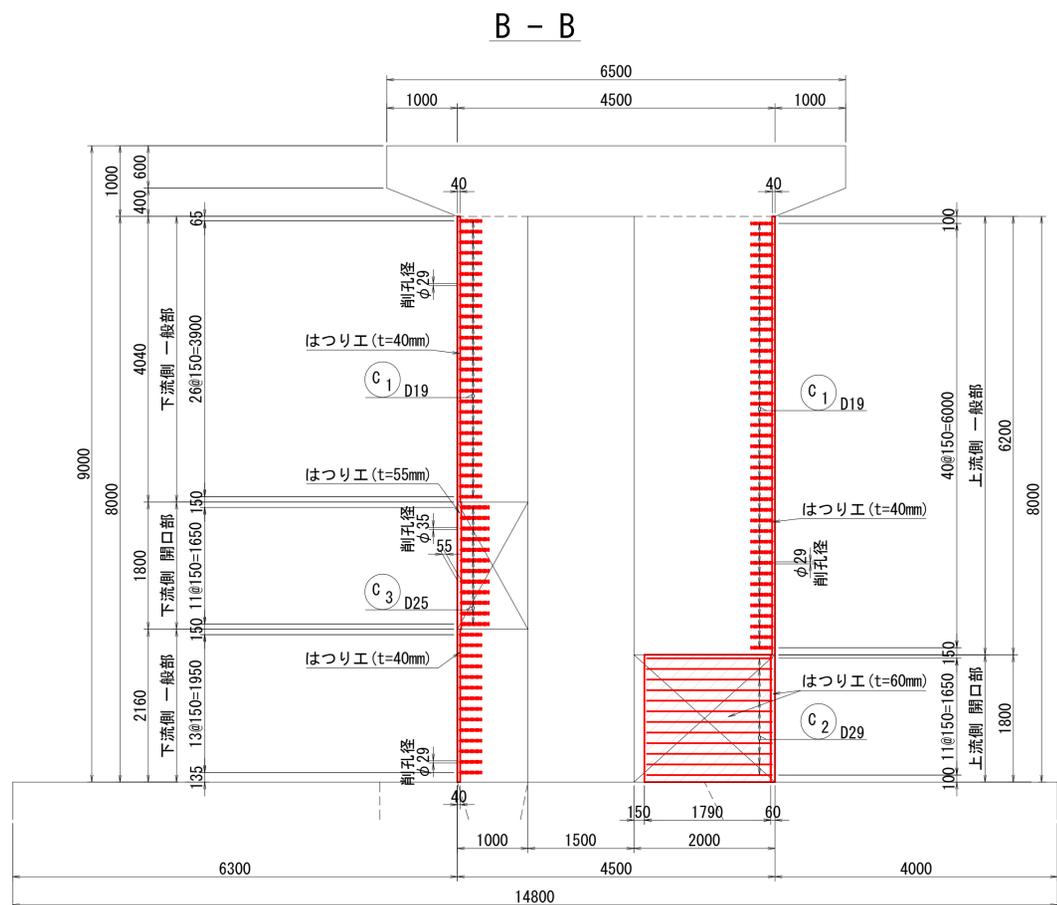
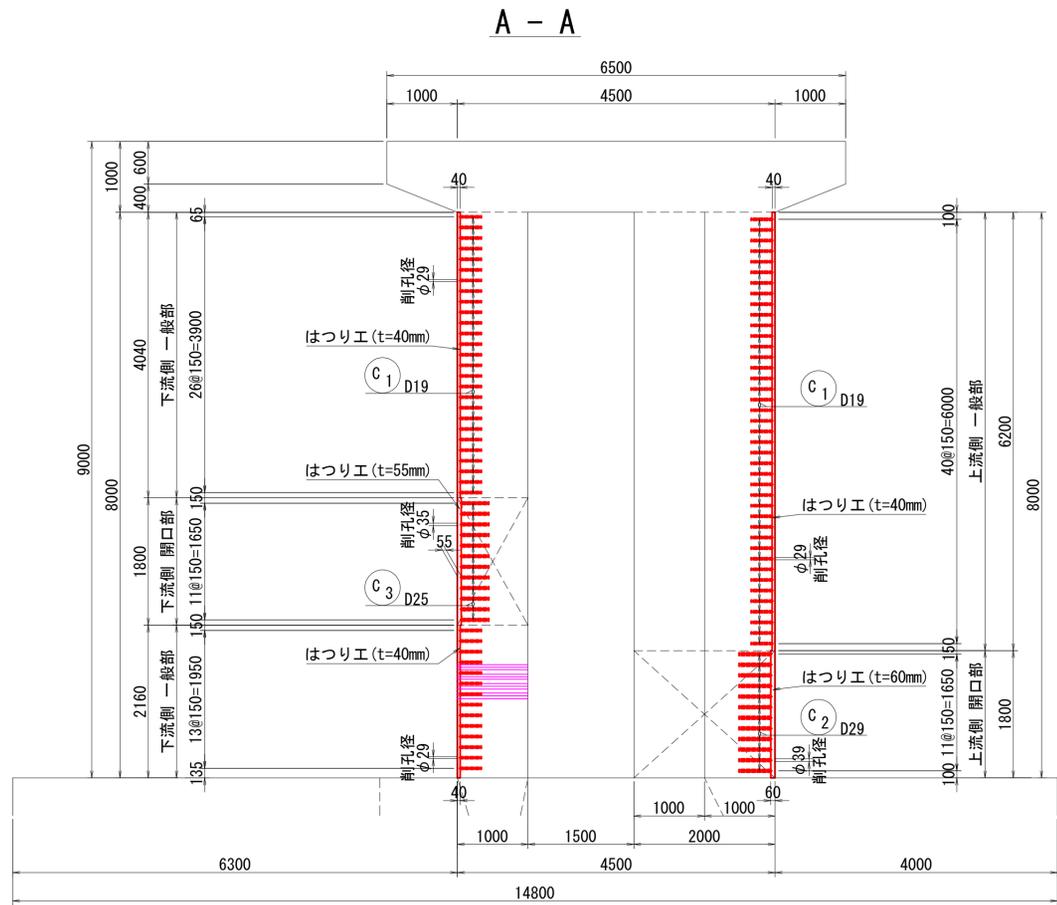
名称 上流閘門(K1・K2堰柱)補強詳細図(4)

登録番号 整理番号

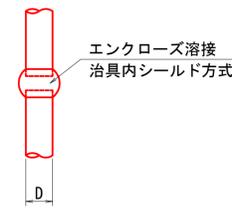
独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所

P1~P6堰柱補強詳細図(1) S=1:50

旧吉野川河口堰 門柱 C-C



鉄筋継手工



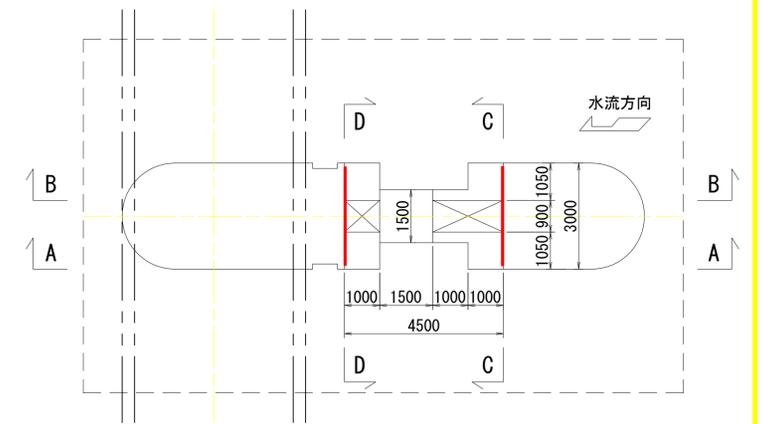
凡例

	ポリマーセメントモルタル吹付工・はつり工
	鉄筋継手位置(エンクローズ溶接)

特記事項

- 施工は鉄筋探査を行い、既設鉄筋の位置を確認の上で行うこと。
- 削孔位置が既設鉄筋等に干渉する場合は、施工時に現場にて削孔位置を調整すること。
削孔位置を調整する場合は、以下の鉄筋間隔を守り、位置の調整を行う。
・門柱のポリマーセメントモルタル吹付工のせん断補強筋は、150mmピッチの間隔内に設置すること。また、既設軸方向鉄筋端部と端部から2番目の軸方向鉄筋との間に設置するものとし位置を調整すること。
- アンカー筋設置の際は、既設鉄筋に損傷を与えないよう注意すること。
- 工事に支障となる添加物等は撤去を行い、補強対策後は適切に復旧すること。
- せん断補強筋は既設コンクリート面に取付金具を用いて固定すること。
- せん断補強筋の継ぎ手はエンクローズ溶接とし、継ぎ手位置は千鳥配置とすること。
- 鉄筋の加工は現地で計測後に行うこと。
- 「PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案) 2023年5月」に規定されている材料及び施工方法と同等品以上とすること

KEYPLAN



【構造細目】

- 削孔位置：軸方向鉄筋の真ん中で壁外からラウンド
- 削孔径：鉄筋径+10mm
- 削孔長：L=15・D
- 鉄筋かぶり：最小かぶり14mm、軸方向及び横方向鉄筋以上 (PP工法)
- 既設Co取壊し範囲：吹付工法の必要かぶり厚

旧吉野川河口堰

工事名 河口堰門柱耐震対策工事(仮称)

名称 P1~P6堰柱補強詳細図(1)

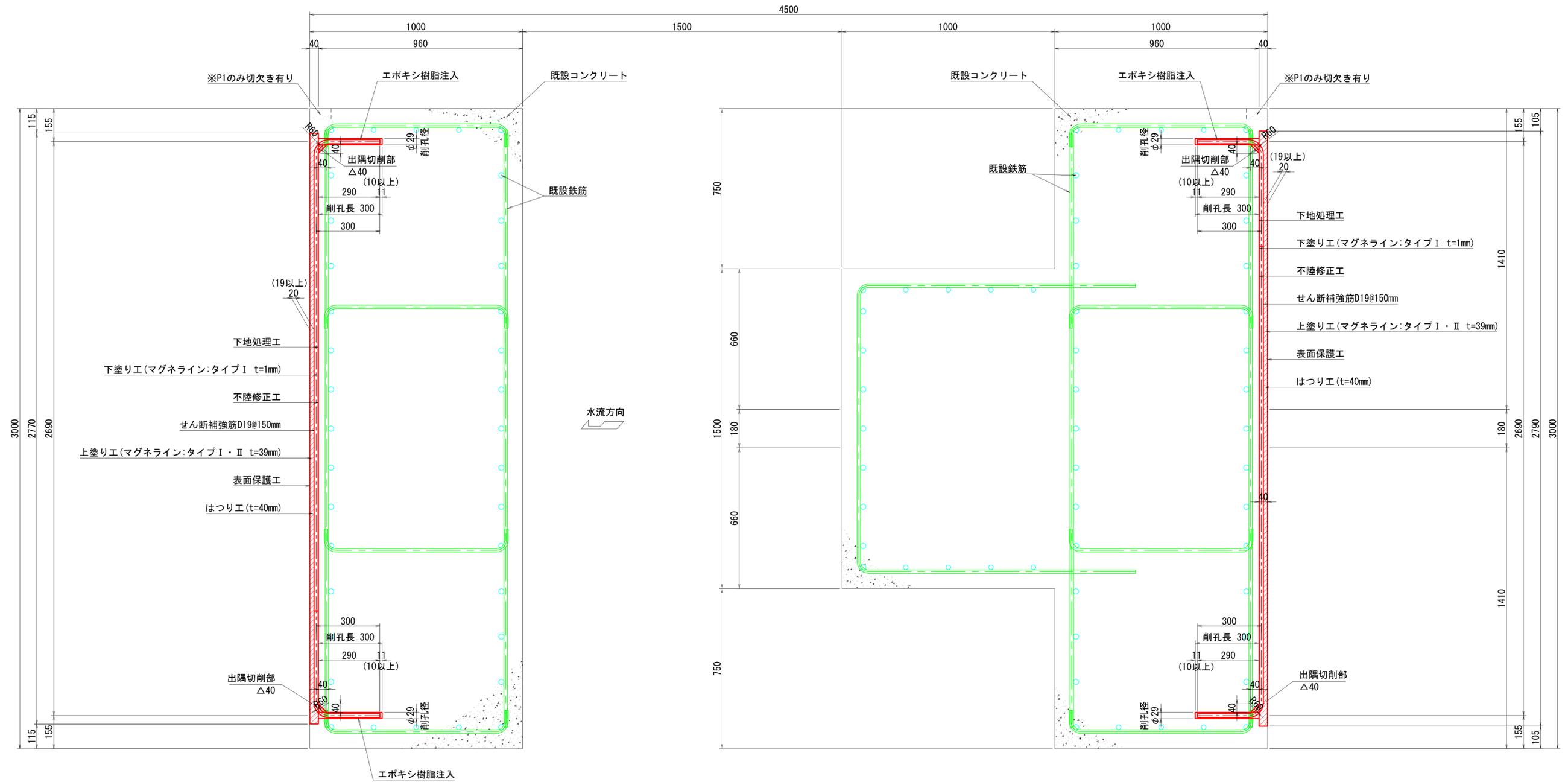
登録番号 整理番号

独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所

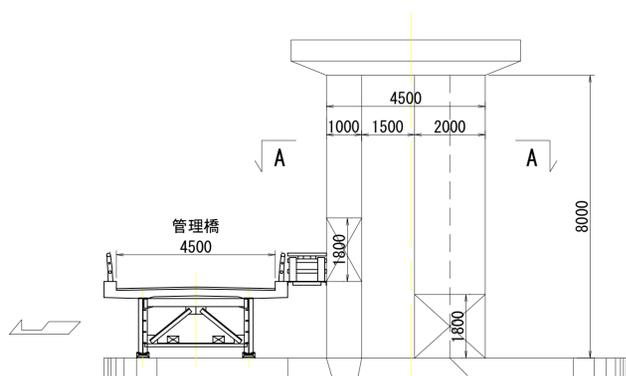
P1～P6堰柱補強詳細図(2) S=1:10

旧吉野川河口堰 門柱一般部

A - A



KEYPLAN



特記事項

1. 施工は鉄筋探査を行い、既設鉄筋の位置を確認の上で行うこと。
2. 削孔位置が既設鉄筋等に干渉する場合は、施工時に現場にて削孔位置を調整すること。
削孔位置を調整する場合は、以下の鉄筋間隔を守り、位置の調整を行う。
・門柱のポリマーセメントモルタル吹付工のせん断補強筋は、150mmピッチの間隔内に設置すること。また、既設軸方向鉄筋端部と端部から2番目の軸方向鉄筋との間に設置するものとし位置を調整すること。
3. アンカー筋設置の際は、既設鉄筋に損傷を与えないよう注意すること。
4. 工事に支障となる添加物等は撤去を行い、補強対策後は適切に復旧すること。
5. せん断補強筋は既設コンクリート面に取付金具を用いて固定すること。
6. せん断補強筋の継ぎ手はエンクローズ溶接とし、継ぎ手位置は千鳥配置とすること。
7. 鉄筋の加工は現地で計測後に行うこと。
8. 「PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案) 2023年5月」に規定されている材料及び施工方法と同等品以上とすること

【構造細目】

削孔位置：軸方向鉄筋の真ん中で壁外からラウンド
削孔径：鉄筋径+10mm
削孔長：L=15・D
鉄筋かぶり：最小かぶり14mm、軸方向及び横方向鉄筋以上 (PP工法)
既設Co取壊し範囲：吹付工法の必要かぶり厚

旧吉野川河口堰

工事名 河口堰門柱耐震対策工事 (仮称)

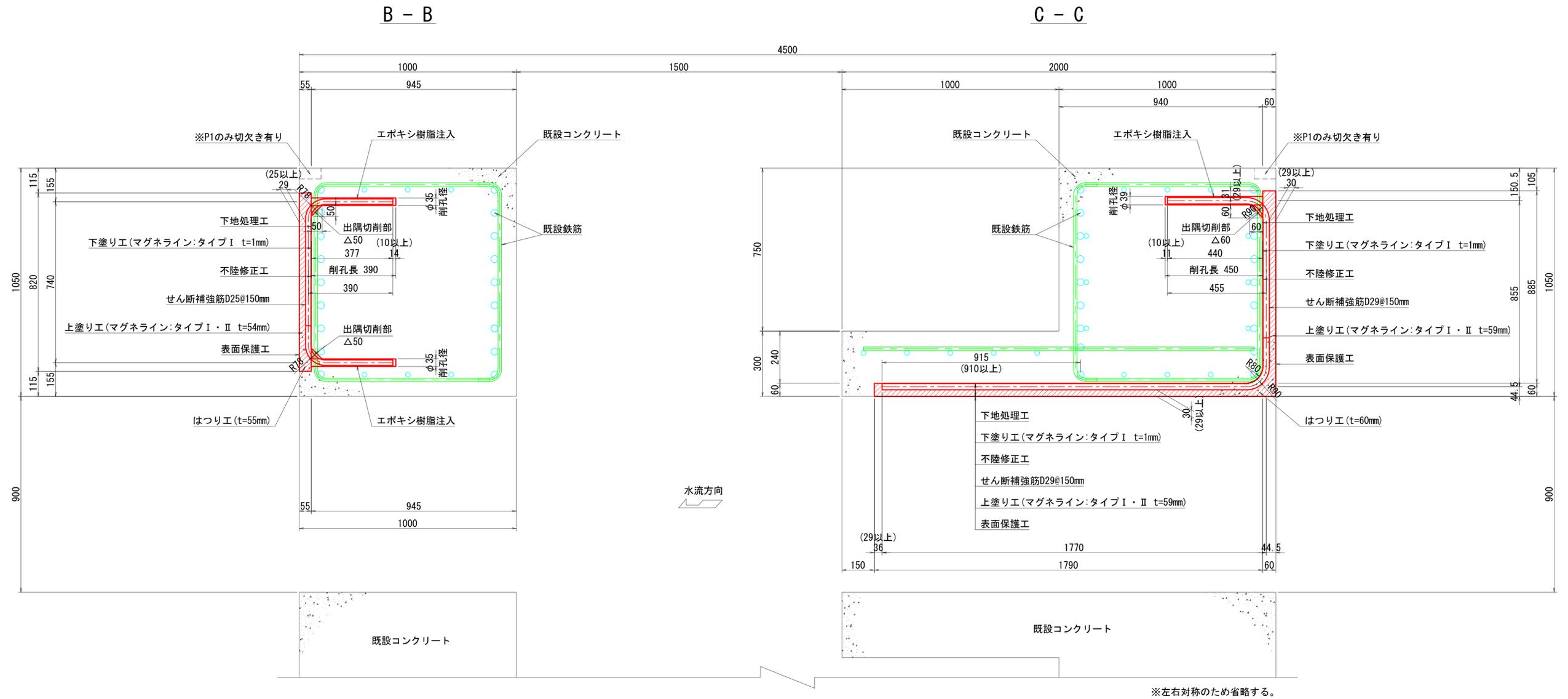
名称 P1～P6堰柱補強詳細図(2)

登録番号 整理番号

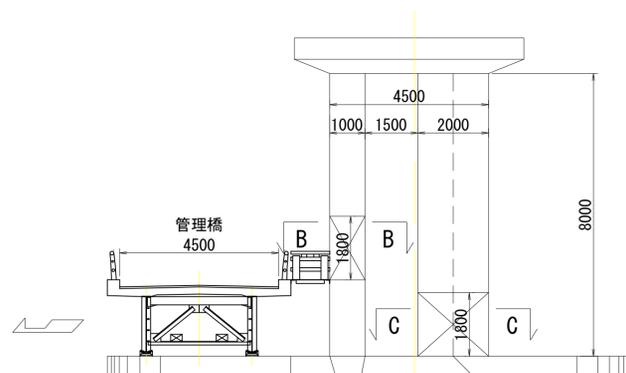
独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所

P1~P6堰柱補強詳細図(3) S=1:10

旧吉野川河口堰 門柱開口部



KEYPLAN



特記事項

1. 施工は鉄筋探索を行い、既設鉄筋の位置を確認の上で行うこと。
2. 削孔位置が既設鉄筋等に干渉する場合は、施工時に現場にて削孔位置を調整すること。
削孔位置を調整する場合は、以下の鉄筋間隔を守り、位置の調整を行う。
・門柱のポリマーセメントモルタル吹付工のせん断補強筋は、150mmピッチの間隔内に設置すること。また、既設軸方向鉄筋端部と端部から2番目の軸方向鉄筋との間に設置するものとし位置を調整すること。
3. アンカー筋設置の際は、既設鉄筋に損傷を与えないよう注意すること。
4. 工事に支障となる添加物等は撤去を行い、補強対策後は適切に復旧すること。
5. せん断補強筋は既設コンクリート面に取付金具を用いて固定すること。
6. せん断補強筋の継ぎ手はエンクローズ溶接とし、継ぎ手位置は千鳥配置とすること。
7. 鉄筋の加工は現地で計測後に行うこと。
8. 「PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案) 2023年5月」に規定されている材料及び施工方法と同等品以上とすること

【構造細目】

削孔位置：軸方向鉄筋の真ん中で壁外からラウンド
削孔径：鉄筋径+10mm
削孔長：L=15・D
鉄筋かぶり：最小かぶり14mm、軸方向及び横方向鉄筋以上 (PP工法)
既設Co取壊し範囲：吹付工法の必要かぶり厚

旧吉野川河口堰

工事名 河口堰門柱耐震対策工事(仮称)

名称 P1~P6堰柱補強詳細図(3)

登録番号

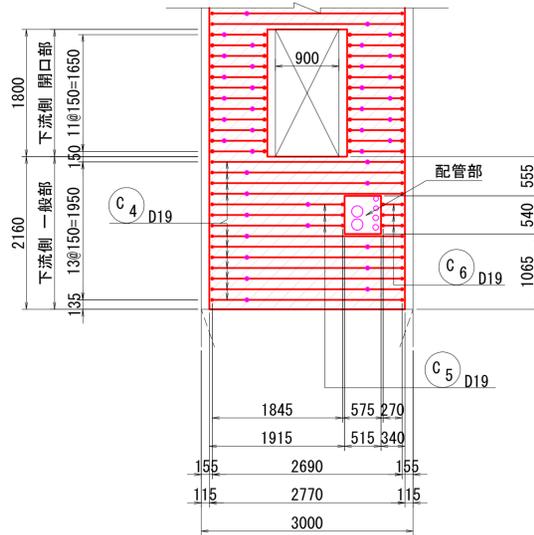
整理番号

独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所

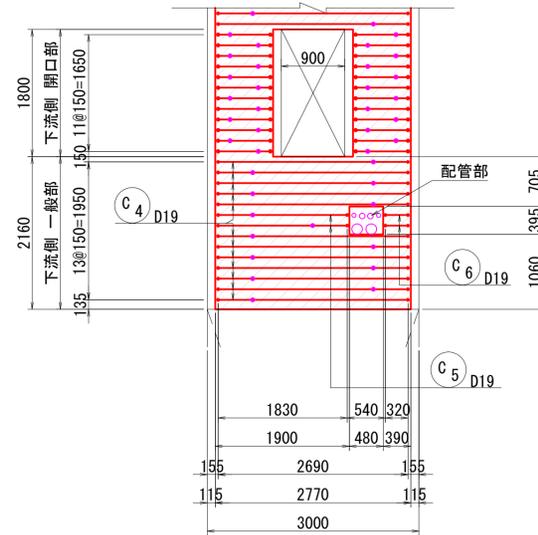
P1～P6堰柱補強詳細図(4) S=1:50

旧吉野川河口堰 門柱下流側開口部下配管部

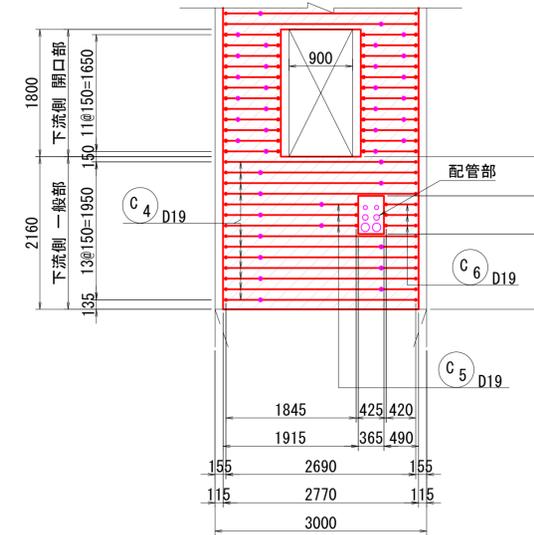
P1堰柱
正面図



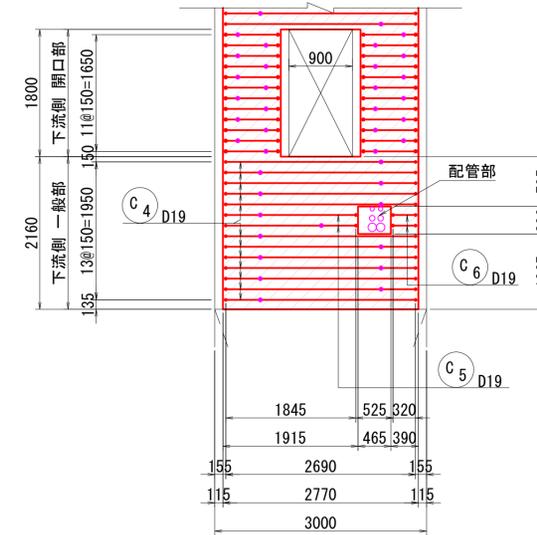
P2堰柱
正面図



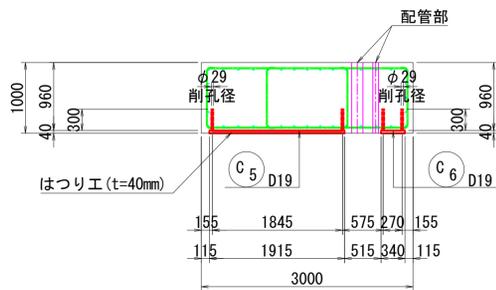
P3堰柱
正面図



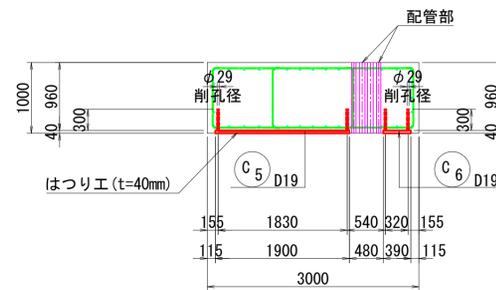
P4堰柱
正面図



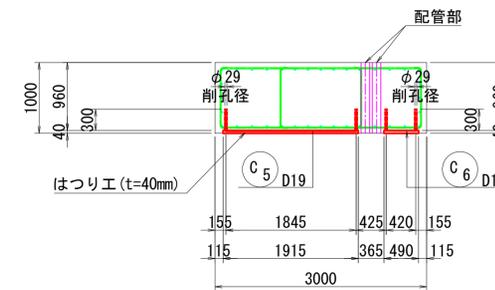
平面図



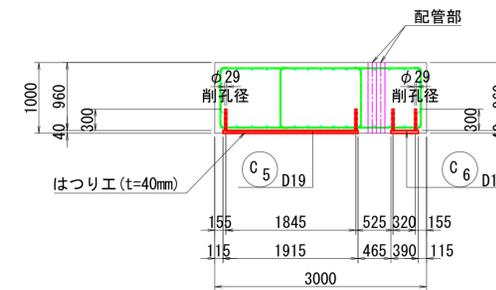
平面図



平面図



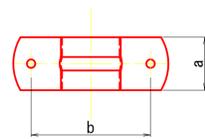
平面図



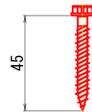
※配管の位置及び径は、現地踏査時に計測したものであるため、工事に先立ち配管位置等を計測の上、耐震補強工事を行うこと。

主筋取付金具詳細図

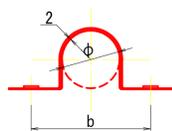
正面図



Pレスアンカー
φ6×L45



断面図



(配置間隔 @2000程度)

タイプ	a	b	φ
D19用	25	53	21.7
D22・D25用	25	56	27.2
D29・D32用	25	65	34.0

凡例

	ポリマーセメントモルタル吹付工・はつり工
	鉄筋継手位置(エンクローズ溶接)

【構造細目】

削孔位置：軸方向鉄筋の真ん中で壁外からラウンド
削孔径：鉄筋径+10mm
削孔長：L=15・D
鉄筋かぶり：最小かぶり14mm、軸方向及び横方向鉄筋以上 (PP工法)
既設Co取壊し範囲：吹付工法の必要かぶり厚

特記事項

- 施工は鉄筋探索を行い、既設鉄筋の位置を確認の上で行うこと。
- 削孔位置が既設鉄筋等に干渉する場合は、施工時に現場にて削孔位置を調整すること。
削孔位置を調整する場合は、以下の鉄筋間隔を守り、位置の調整を行う。
・門柱のポリマーセメントモルタル吹付工のせん断補強筋は、150mmピッチの間隔内に設置すること。また、既設軸方向鉄筋端部と端部から2番目の軸方向鉄筋との間に設置するものとし位置を調整すること。
- アンカー筋設置の際は、既設鉄筋に損傷を与えないよう注意すること。
- 工事に支障となる添加物等は撤去を行い、補強対策後は適切に復旧すること。
- せん断補強筋は既設コンクリート面に取付金具を用いて固定すること。
- せん断補強筋の継ぎ手はエンクローズ溶接とし、継ぎ手位置は千鳥配置とすること。
- 鉄筋の加工は現地で計測後に行うこと。
- 「PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案) 2023年5月」に規定されている材料及び施工方法及と同等品以上とすること

旧吉野川河口堰

工事名 河口堰門柱耐震対策工事(仮称)

名称 P1～P6堰柱補強詳細図(4)

登録番号

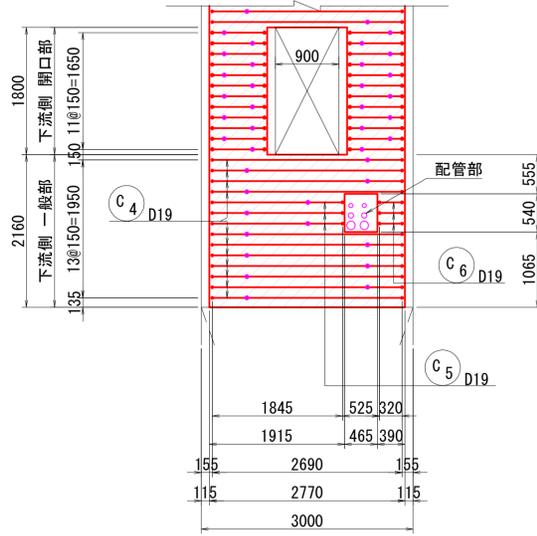
整理番号

独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所

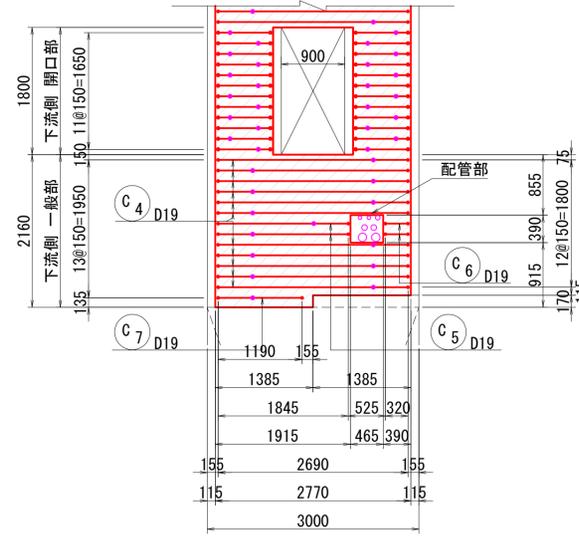
P1～P6堰柱補強詳細図(5) S=1:50

旧吉野川河口堰 門柱下流側開口部下配管部

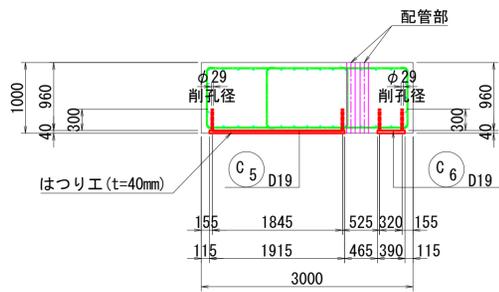
P5堰柱
正面図



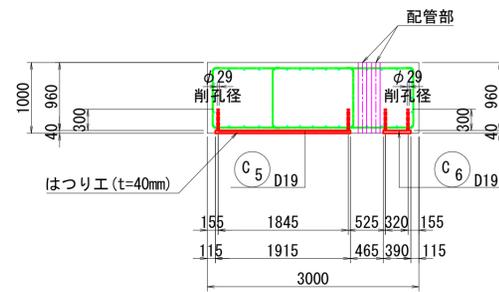
P6堰柱
正面図



平面図



平面図



※配管の位置及び径は、現地踏査時に計測したものであるため、工事に先立ち配管位置等を計測の上、耐震補強工事を行うこと。

凡例

	ポリマーセメントモルタル吹付工・はつり工
	鉄筋継手位置(エンクローズ溶接)

【構造細目】

削孔位置：軸方向鉄筋の真ん中で壁外からラウンド
 削孔径：鉄筋径+10mm
 削孔長：L=15・D
 鉄筋かぶり：最小かぶり14mm、軸方向及び横方向鉄筋以上（PP工法）
 既設Co取壊し範囲：吹付工法の必要かぶり厚

特記事項

- 施工は鉄筋探査を行い、既設鉄筋の位置を確認の上で行うこと。
- 削孔位置が既設鉄筋等に干渉する場合は、施工時に現場にて削孔位置を調整すること。
削孔位置を調整する場合は、以下の鉄筋間隔を守り、位置の調整を行う。
・門柱のポリマーセメントモルタル吹付工のせん断補強筋は、150mmピッチの間隔内に設置すること。また、既設軸方向鉄筋端部と端部から2番目の軸方向鉄筋との間に設置するものとし位置を調整すること。
- アンカー筋設置の際は、既設鉄筋に損傷を与えないよう注意すること。
- 工事に支障となる添加物等は撤去を行い、補強対策後は適切に復旧すること。
- せん断補強筋は既設コンクリート面に取付金具を用いて固定すること。
- せん断補強筋の継ぎ手はエンクローズ溶接とし、継ぎ手位置は千鳥配置とすること。
- 鉄筋の加工は現地で計測後に行うこと。
- 「PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案) 2023年5月」に規定されている材料及び施工方法と同等品以上とすること

旧吉野川河口堰

業務名 河口堰門柱耐震対策工事（仮称）

名称 P1～P6堰柱補強詳細図(5)

登録番号 整理番号

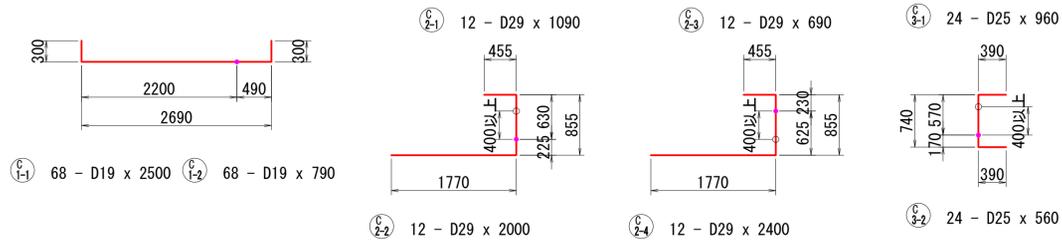
独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所

P1～P6堰柱補強詳細図(6) S=1:50

旧吉野川河口堰 門柱

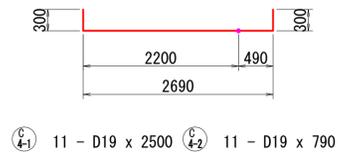
鉄筋加工図

P1～P6堰柱共通

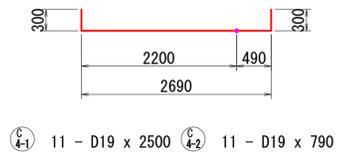


門柱下流側開口部下配管部

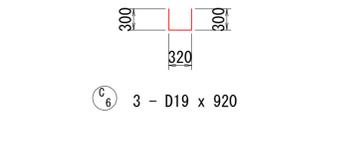
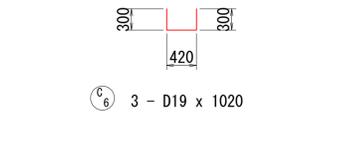
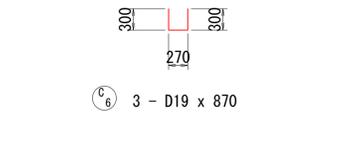
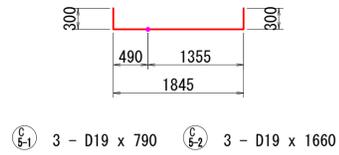
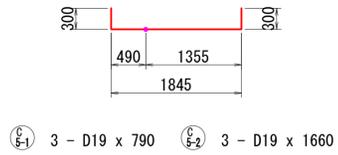
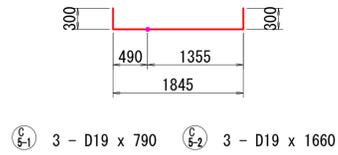
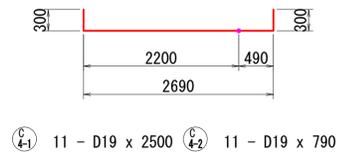
P1堰柱



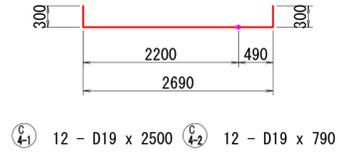
P3堰柱



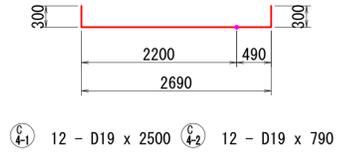
P5堰柱



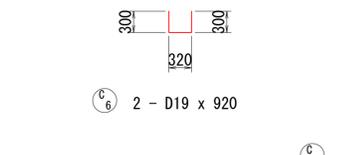
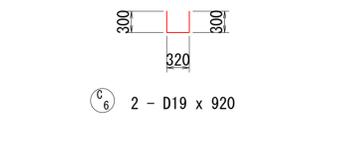
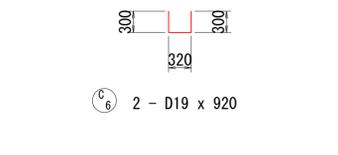
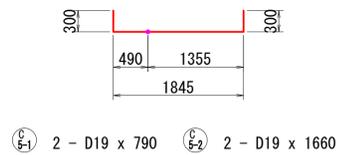
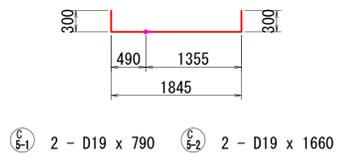
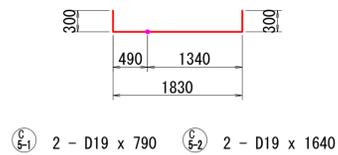
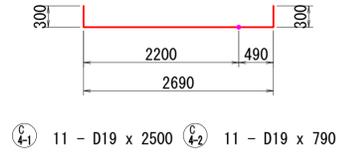
P2堰柱



P4堰柱



P6堰柱



鉄筋表 P1堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D19	2500	68	2.250	5.63	383	┌
1-2	D19	790	68	2.250	1.78	121 (68)	└
2-1	D29	1090	12	5.040	5.49	66	└
2-2	D29	2000	12	5.040	10.08	121 (12)	└
2-3	D29	690	12	5.040	3.48	42	└
2-4	D29	2400	12	5.040	12.10	145 (12)	└
3-1	D25	960	24	3.980	3.82	92	└
3-2	D25	560	24	3.980	2.23	53 (24)	└
4-1	D19	2500	11	2.250	5.63	62	┌
4-2	D19	790	11	2.250	1.78	20 (11)	└
5-1	D19	790	3	2.250	1.78	5	┌
5-2	D19	1660	3	2.250	3.74	11 (3)	└
6	D19	870	3	2.250	1.96	6	└
D29 374 kg							
D25 145 kg							
D19 608 kg							
合計 1127 kg							
D29 エンクローズ溶接 24箇所							
D25 エンクローズ溶接 24箇所							
D19 エンクローズ溶接 82箇所							

鉄筋表 P3堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D19	2500	68	2.250	5.63	383	┌
1-2	D19	790	68	2.250	1.78	121 (68)	└
2-1	D29	1090	12	5.040	5.49	66	└
2-2	D29	2000	12	5.040	10.08	121 (12)	└
2-3	D29	690	12	5.040	3.48	42	└
2-4	D29	2400	12	5.040	12.10	145 (12)	└
3-1	D25	960	24	3.980	3.82	92	└
3-2	D25	560	24	3.980	2.23	53 (24)	└
4-1	D19	2500	11	2.250	5.63	62	┌
4-2	D19	790	11	2.250	1.78	20 (11)	└
5-1	D19	790	3	2.250	1.78	5	┌
5-2	D19	1660	3	2.250	3.74	11 (3)	└
6	D19	1020	3	2.250	2.30	7	└
D29 374 kg							
D25 145 kg							
D19 609 kg							
合計 1128 kg							
D29 エンクローズ溶接 24箇所							
D25 エンクローズ溶接 24箇所							
D19 エンクローズ溶接 82箇所							

鉄筋表 P5堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D19	2500	68	2.250	5.63	383	┌
1-2	D19	790	68	2.250	1.78	121 (68)	└
2-1	D29	1090	12	5.040	5.49	66	└
2-2	D29	2000	12	5.040	10.08	121 (12)	└
2-3	D29	690	12	5.040	3.48	42	└
2-4	D29	2400	12	5.040	12.10	145 (12)	└
3-1	D25	960	24	3.980	3.82	92	└
3-2	D25	560	24	3.980	2.23	53 (24)	└
4-1	D19	2500	11	2.250	5.63	62	┌
4-2	D19	790	11	2.250	1.78	20 (11)	└
5-1	D19	790	3	2.250	1.78	5	┌
5-2	D19	1660	3	2.250	3.74	11 (3)	└
6	D19	920	3	2.250	2.07	6	└
D29 374 kg							
D25 145 kg							
D19 608 kg							
合計 1127 kg							
D29 エンクローズ溶接 24箇所							
D25 エンクローズ溶接 24箇所							
D19 エンクローズ溶接 82箇所							

鉄筋表 P2堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D19	2500	68	2.250	5.63	383	┌
1-2	D19	790	68	2.250	1.78	121 (68)	└
2-1	D29	1090	12	5.040	5.49	66	└
2-2	D29	2000	12	5.040	10.08	121 (12)	└
2-3	D29	690	12	5.040	3.48	42	└
2-4	D29	2400	12	5.040	12.10	145 (12)	└
3-1	D25	960	24	3.980	3.82	92	└
3-2	D25	560	24	3.980	2.23	53 (24)	└
4-1	D19	2500	12	2.250	5.63	68	┌
4-2	D19	790	12	2.250	1.78	21 (12)	└
5-1	D19	790	2	2.250	1.78	4	┌
5-2	D19	1640	2	2.250	3.69	7 (2)	└
6	D19	920	2	2.250	2.07	4	└
D29 374 kg							
D25 145 kg							
D19 608 kg							
合計 1127 kg							
D29 エンクローズ溶接 24箇所							
D25 エンクローズ溶接 24箇所							
D19 エンクローズ溶接 82箇所							

鉄筋表 P4堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D19	2500	68	2.250	5.63	383	┌
1-2	D19	790	68	2.250	1.78	121 (68)	└
2-1	D29	1090	12	5.040	5.49	66	└
2-2	D29	2000	12	5.040	10.08	121 (12)	└
2-3	D29	690	12	5.040	3.48	42	└
2-4	D29	2400	12	5.040	12.10	145 (12)	└
3-1	D25	960	24	3.980	3.82	92	└
3-2	D25	560	24	3.980	2.23	53 (24)	└
4-1	D19	2500	12	2.250	5.63	68	┌
4-2	D19	790	12	2.250	1.78	21 (12)	└
5-1	D19	790	2	2.250	1.78	4	┌
5-2	D19	1660	2	2.250	3.74	7 (2)	└
6	D19	920	2	2.250	2.07	4	└
D29 374 kg							
D25 145 kg							
D19 608 kg							
合計 1127 kg							
D29 エンクローズ溶接 24箇所							
D25 エンクローズ溶接 24箇所							
D19 エンクローズ溶接 82箇所							

鉄筋表 P6堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D19	2500	68	2.250	5.63	383	┌
1-2	D19	790	68	2.250	1.78	121 (68)	└
2-1	D29	1090	12	5.040	5.49	66	└
2-2	D29	2000	12	5.040	10.08	121 (12)	└
2-3	D29	690	12	5.040	3.48	42	└
2-4	D29	2400	12	5.040	12.10	145 (12)	└
3-1	D25	960	24	3.980	3.82	92	└
3-2	D25	560	24	3.980	2.23	53 (24)	└
4-1	D19	2500	11	2.250	5.63	62	┌
4-2	D19	790	11	2.250	1.78	20 (11)	└
5-1	D19	790	2	2.250	1.78	4	┌
5-2	D19	1660	2	2.250	3.74	7 (2)	└
6	D19	920	2	2.250	2.07	4	└
7-1	D19	790	1	2.250	1.78	2	┌
7-2	D19	1000	1	2.250	2.25	2 (1)	└
D29 374 kg							
D25 145 kg							
D19 605 kg							
合計 1124 kg							
D29 エンクローズ溶接 24箇所							
D25 エンクローズ溶接 24箇所							
D19 エンクローズ溶接 82箇所							

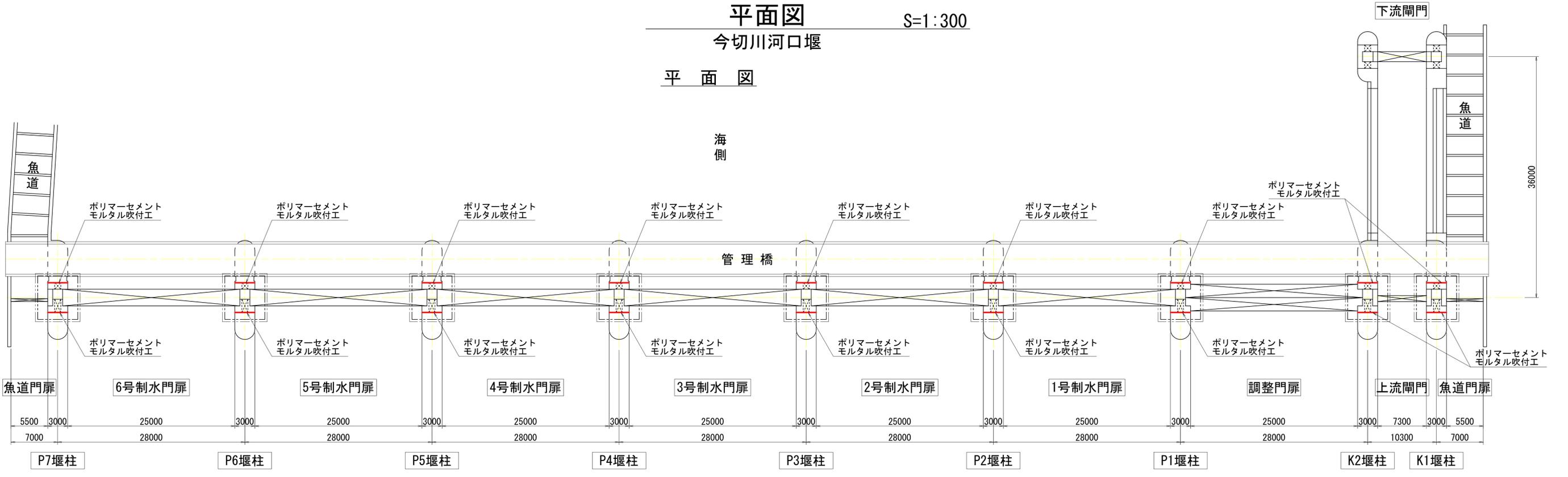
旧吉野川河口堰	
工事名 河口堰門柱耐震対策工事(仮称)	
名称 P1～P6堰柱補強詳細図(6)	
登録番号	整理番号
独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所	

平面図

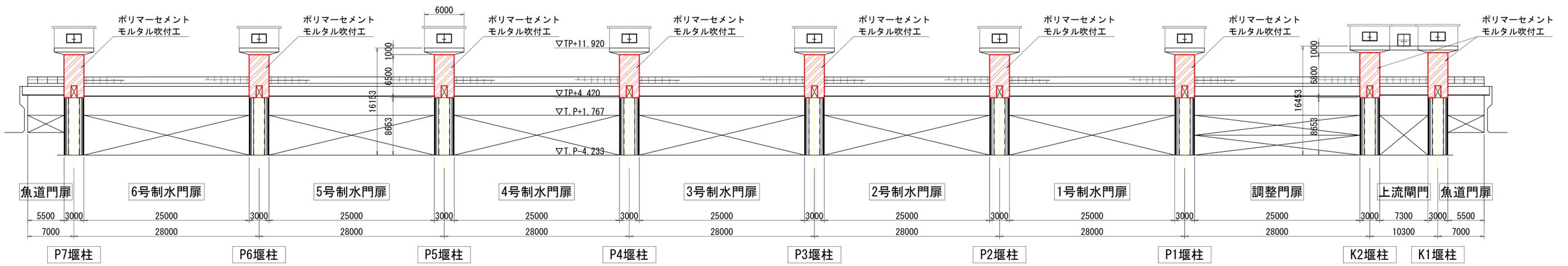
S=1:300

今切川河口堰

平面図



正面図



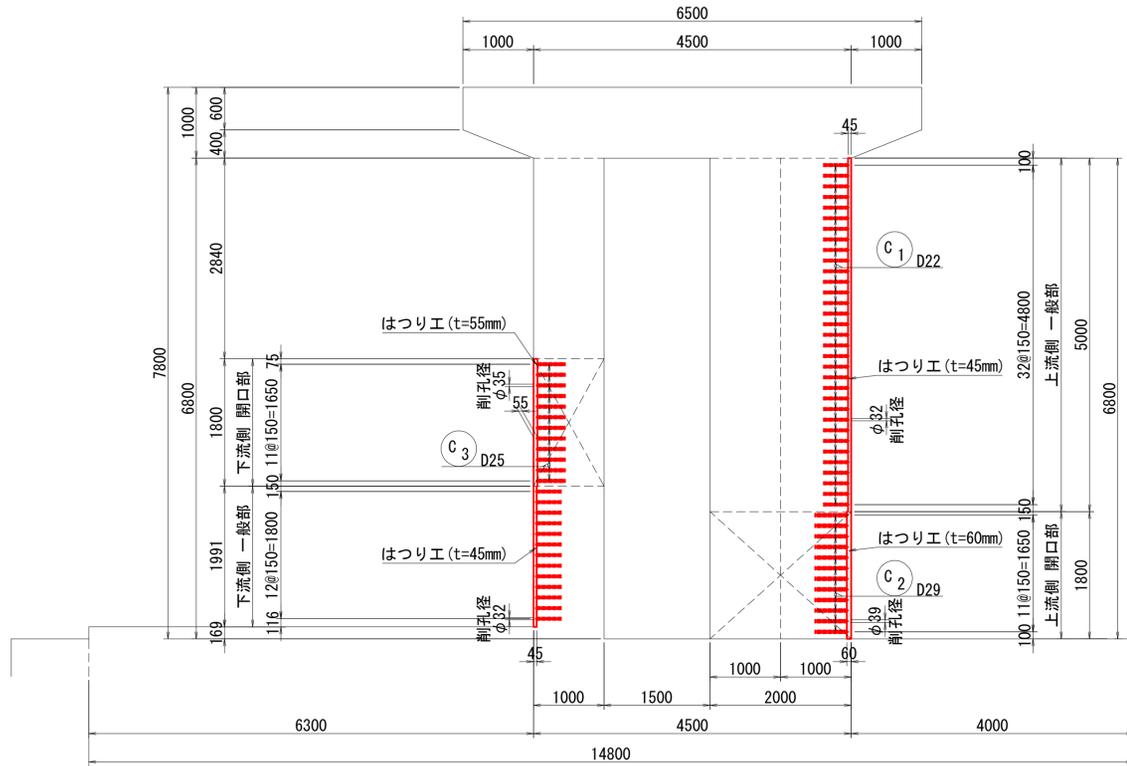
今切川河口堰	
業務名	河口堰門柱耐震対策工事（仮称）
名称	平面図
登録番号	整理番号
独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所	

上流閘門(K1・K2堰柱)補強詳細図(1) S=1:50

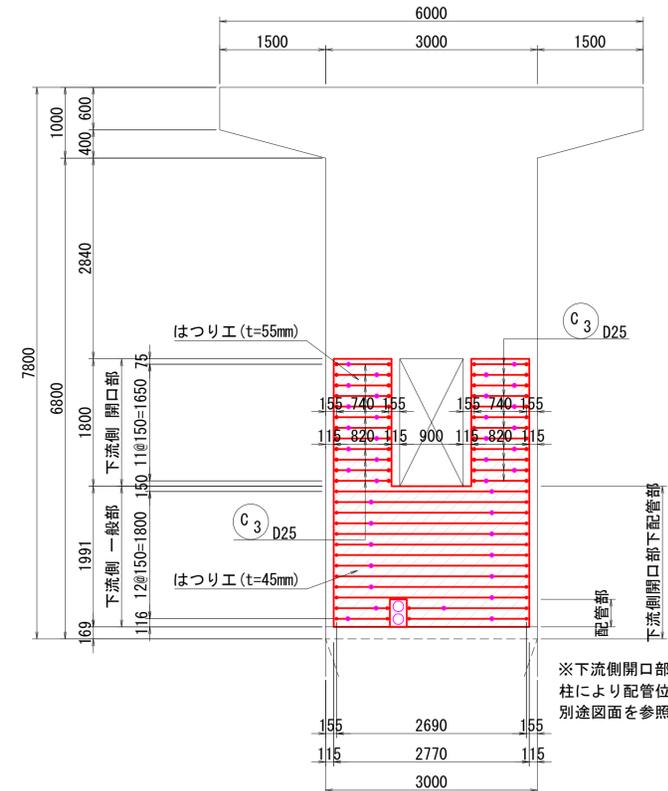
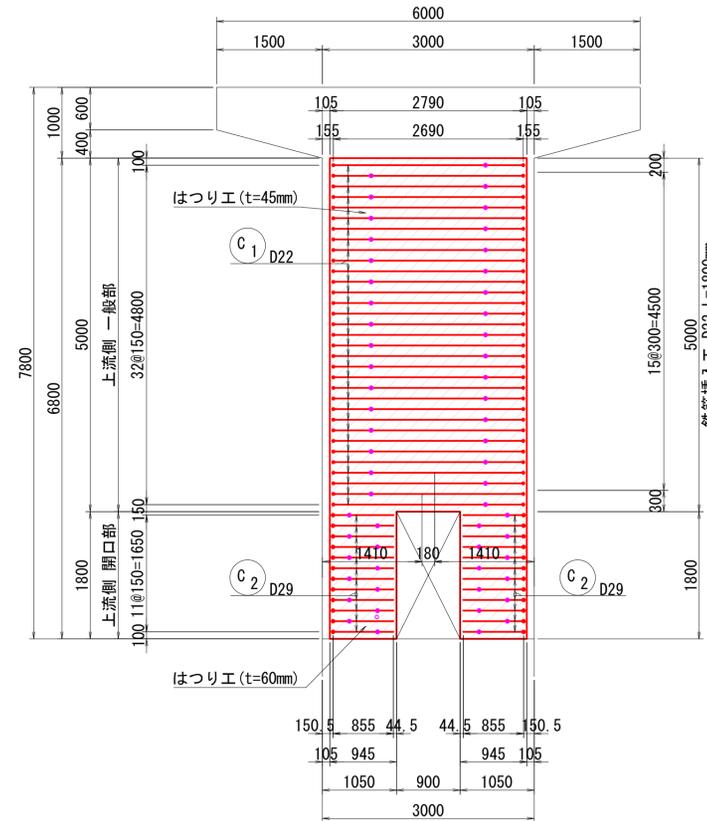
今切川河口堰 門柱 C-C

A-A

D-D

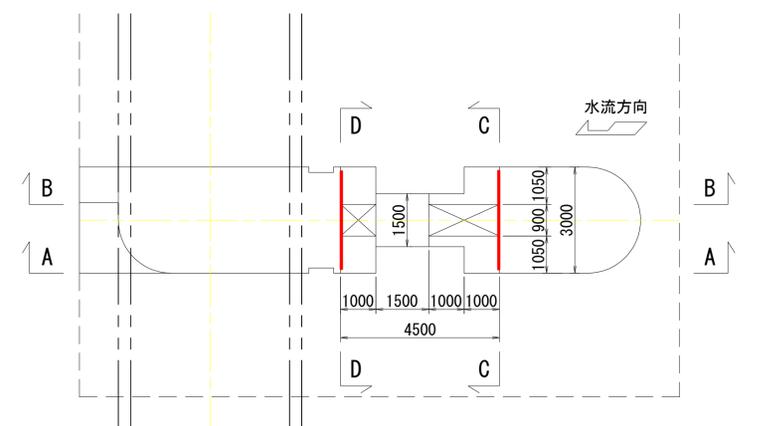


B-B

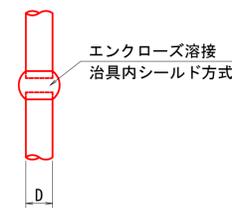


※下流側開口部下の配管部は各門柱により配管位置が異なるため、別途図面を参照すること。

KEYPLAN



鉄筋継手工



凡例

	ポリマーセメントモルタル吹付工・はつり工
	鉄筋継手位置(エンクローズ溶接)

特記事項

- 施工は鉄筋探査を行い、既設鉄筋の位置を確認の上で行うこと。
- 削孔位置が既設鉄筋等に干渉する場合は、施工時に現場にて削孔位置を調整すること。削孔位置を調整する場合は、以下の鉄筋間隔を守り、位置の調整を行う。
 - 門柱のポリマーセメントモルタル吹付工のせん断補強筋は、150mmピッチの間隔内に設置すること。また、既設軸方向鉄筋端部と端部から2番目の軸方向鉄筋との間に設置するものとし位置を調整すること。
- アンカー筋設置の際は、既設鉄筋に損傷を与えないよう注意すること。
- 工事に支障となる添加物等は撤去を行い、補強対策後は適切に復旧すること。
- せん断補強筋は既設コンクリート面に取付金具を用いて固定すること。
- せん断補強筋の継ぎ手はエンクローズ溶接とし、継ぎ手位置は千鳥配置とすること。
- 鉄筋の加工は現地で計測後に行うこと。
- 「PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案) 2023年5月」に規定されている材料及び施工方法と同等品以上とすること。

【構造細目】

- 削孔位置：軸方向鉄筋の真ん中で壁外からラウンド
- 削孔径：鉄筋径+10mm
- 削孔長：L=15・D
- 鉄筋かぶり：最小かぶり14mm、軸方向及び横方向鉄筋以上 (PP工法)
- 既設Co取壊し範囲：吹付工法の必要かぶり厚

今切川河口堰

業務名 河口堰門柱耐震対策工事 (仮称)

名称 上流閘門(K1・K2堰柱)補強詳細図(1)

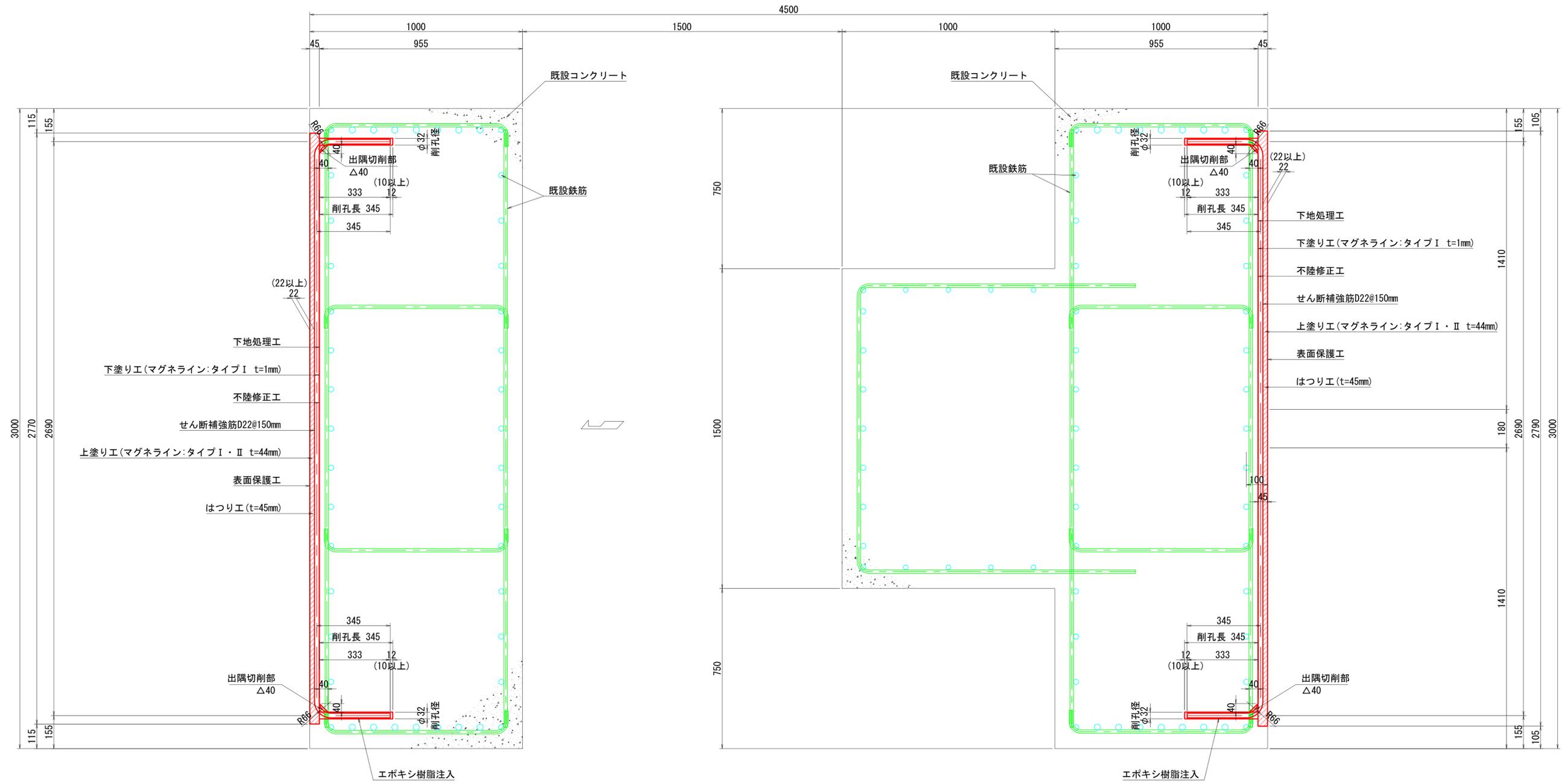
登録番号 整理番号

独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所

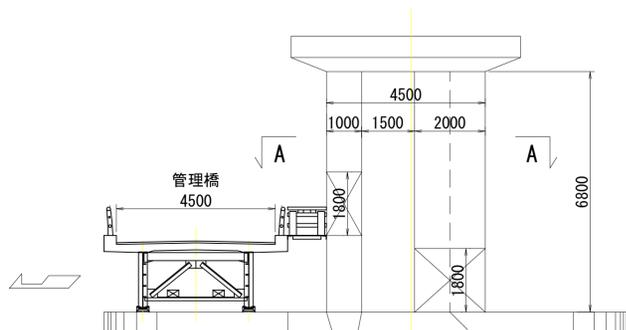
上流閘門(K1・K2堰柱)補強詳細図(2) S=1:10

今切川河口堰 門柱一般部

A - A



KEYPLAN



特記事項

1. 施工は鉄筋探索を行い、既設鉄筋の位置を確認の上で行うこと。
2. 削孔位置が既設鉄筋等に干渉する場合は、施工時に現場にて削孔位置を調整すること。
3. アンカー筋設置の際は、既設鉄筋に損傷を与えないよう注意すること。
4. 工事に支障となる添加物等は撤去を行い、補強対策後は適切に復旧すること。
5. せん断補強筋は既設コンクリート面に取付金具を用いて固定すること。
6. せん断補強筋の継ぎ手はエンクローズ溶接とし、継ぎ手位置は千鳥配置とすること。
7. 鉄筋の加工は現地で計測後に行うこと。
8. 「PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案) 2023年5月」に規定されている材料及び施工方法及と同等品以上とすること

【構造細目】

削孔位置：軸方向鉄筋の真ん中で壁外からラウンド
 削孔径：鉄筋径+10mm
 削孔長：L=15・D
 鉄筋かぶり：最小かぶり14mm、軸方向及び横方向鉄筋以上 (PP工法)
 既設Co取壊し範囲：吹付工法の必要かぶり厚

今切川河口堰

業務名 河口堰門柱耐震対策工事 (仮称)

名称 上流閘門(K1・K2堰柱)補強詳細図(2)

登録番号 整理番号

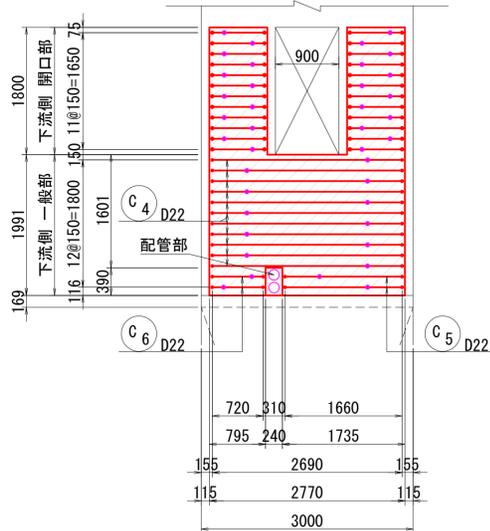
独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所

上流閘門(K1・K2堰柱)補強詳細図(4) S=1:50

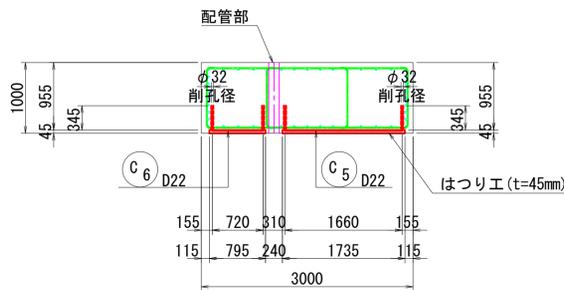
今切川河口堰 門柱

門柱下流側開口部下配管部

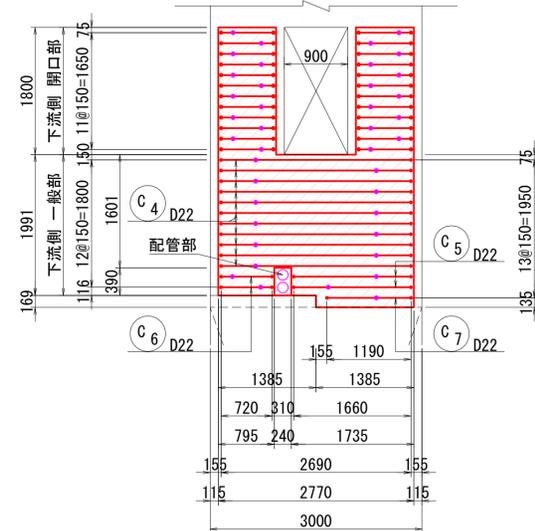
K1堰柱
正面図



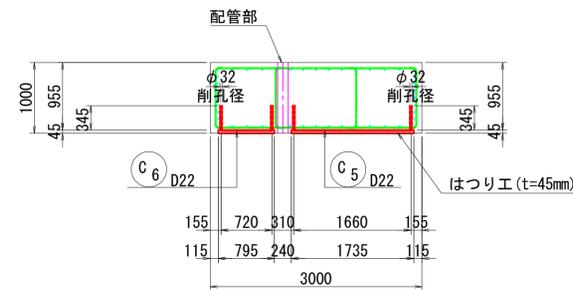
平面図



K2堰柱
正面図

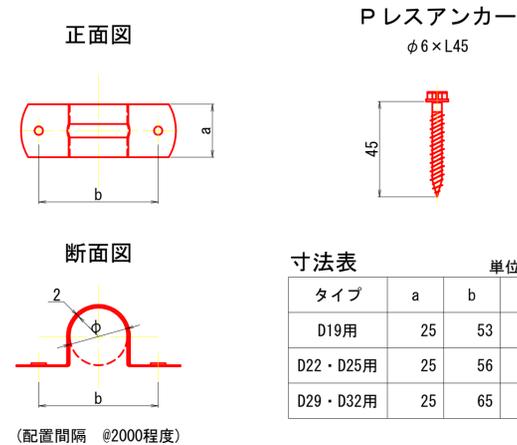


平面図



※配管の位置及び径は、現地踏査時に計測したものであるため、工事に先立ち配管位置等を計測の上、耐震補強工事を行うこと。

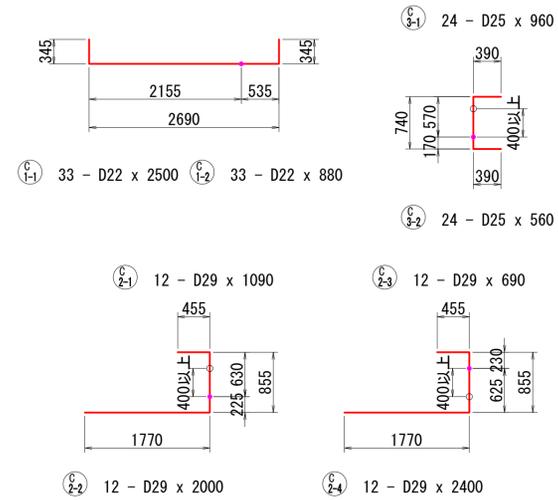
主筋取付金具詳細図



(配置間隔 @2000程度)

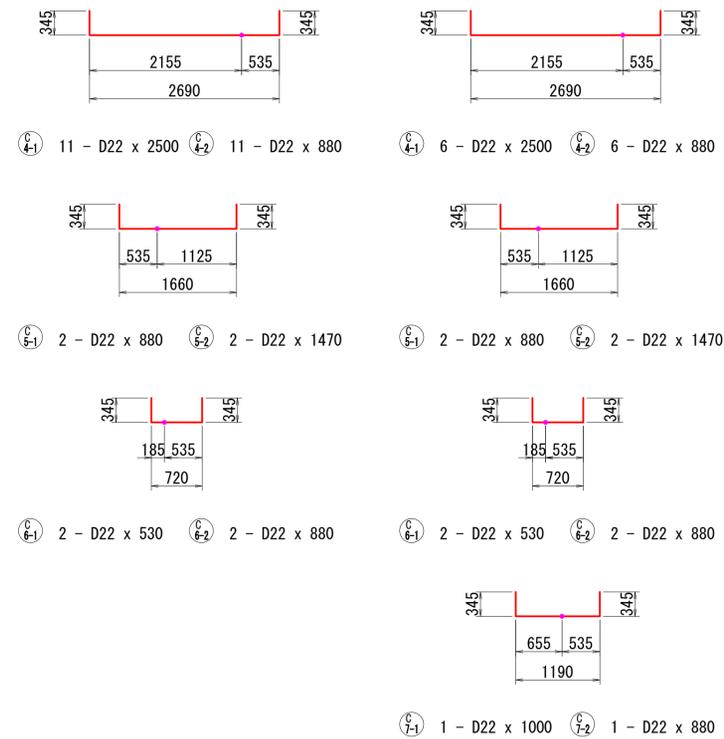
鉄筋加工図

K1・K2堰柱共通

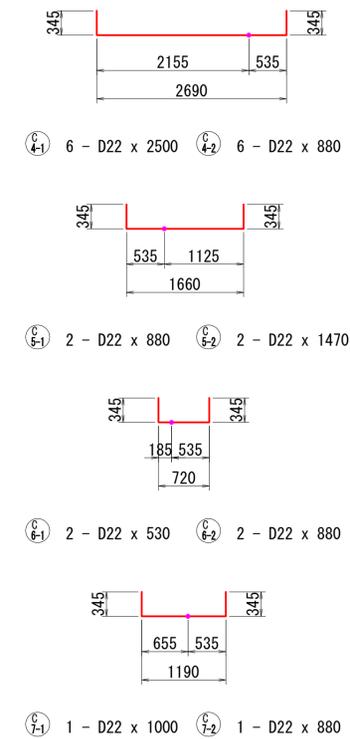


門柱下流側開口部下配管部

K1堰柱



K2堰柱



凡例

	ポリマーセメントモルタル吹付工・はつり工
	鉄筋継手位置(エンクローズ溶接)

鉄筋表 K1堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	2500	33	3.040	7.60	251	┌
1-2	D22	880	33	3.040	2.68	88 (33)	└
2-1	D29	1090	12	5.040	5.49	66	└
2-2	D29	2000	12	5.040	10.08	121 (12)	└
2-3	D29	690	12	5.040	3.48	42	└
2-4	D29	2400	12	5.040	12.10	145 (12)	└
3-1	D25	960	24	3.980	3.82	92	└
3-2	D25	560	24	3.980	2.23	53 (24)	└
4-1	D22	2500	11	3.040	7.60	84	┌
4-2	D22	880	11	3.040	2.68	29 (11)	└
5-1	D22	880	2	3.040	2.68	5	┌
5-2	D22	1470	2	3.040	4.47	9 (5)	└
6-1	D22	530	2	3.040	1.61	3	┌
6-2	D22	880	2	3.040	2.68	5 (2)	└
		D29				374 kg	
		D25				145 kg	
		D22				474 kg	
		合計				993 kg	
		D29 エンクローズ溶接				24 箇所	
		D25 エンクローズ溶接				24 箇所	
		D22 エンクローズ溶接				51 箇所	

鉄筋表 K2堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	2500	33	3.040	7.60	251	┌
1-2	D22	880	33	3.040	2.68	88 (33)	└
2-1	D29	1090	12	5.040	5.49	66	└
2-2	D29	2000	12	5.040	10.08	121 (12)	└
2-3	D29	690	12	5.040	3.48	42	└
2-4	D29	2400	12	5.040	12.10	145 (12)	└
3-1	D25	960	24	3.980	3.82	92	└
3-2	D25	560	24	3.980	2.23	53 (24)	└
4-1	D22	2500	11	3.040	7.60	84	┌
4-2	D22	880	11	3.040	2.68	29 (11)	└
5-1	D22	880	2	3.040	2.68	5	┌
5-2	D22	1470	2	3.040	4.47	9 (5)	└
6-1	D22	530	2	3.040	1.61	3	┌
6-2	D22	880	2	3.040	2.68	5 (2)	└
7-1	D22	1000	1	3.040	3.04	3	┌
7-2	D22	880	1	3.040	2.68	3 (1)	└
		D29				374 kg	
		D25				145 kg	
		D22				480 kg	
		合計				999 kg	
		D29 エンクローズ溶接				24 箇所	
		D25 エンクローズ溶接				24 箇所	
		D22 エンクローズ溶接				52 箇所	

今切川河口堰

業務名 河口堰門柱耐震対策工事 (仮称)

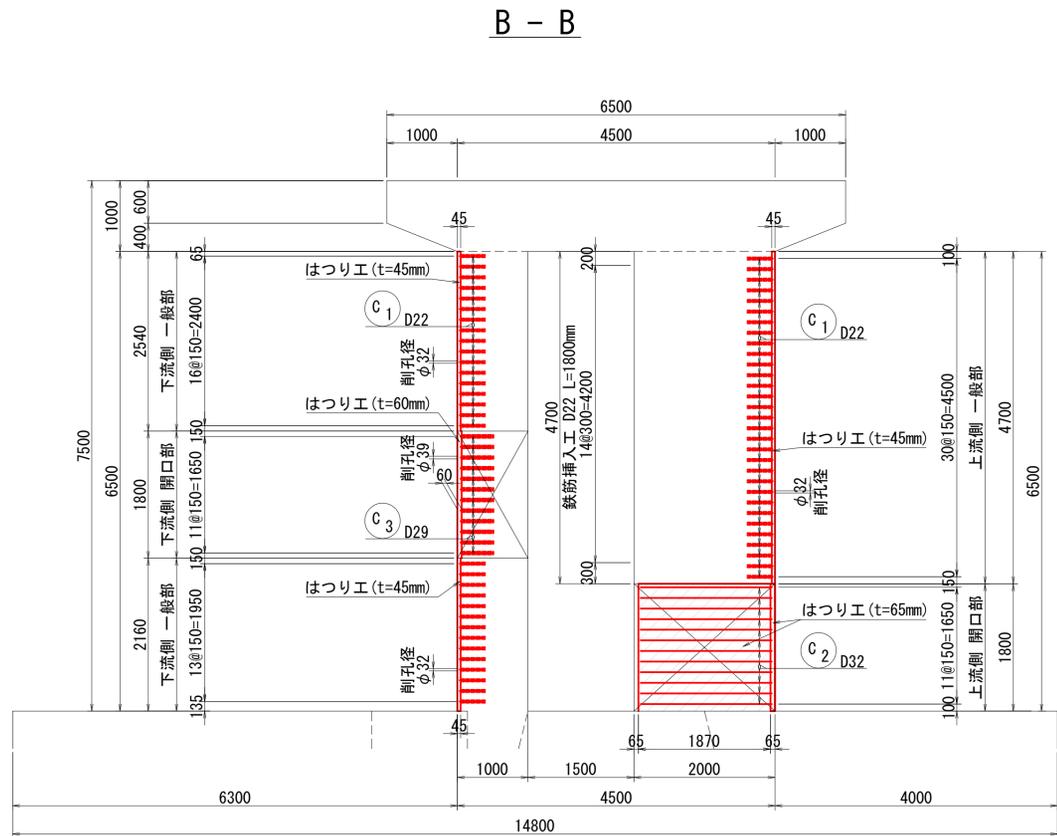
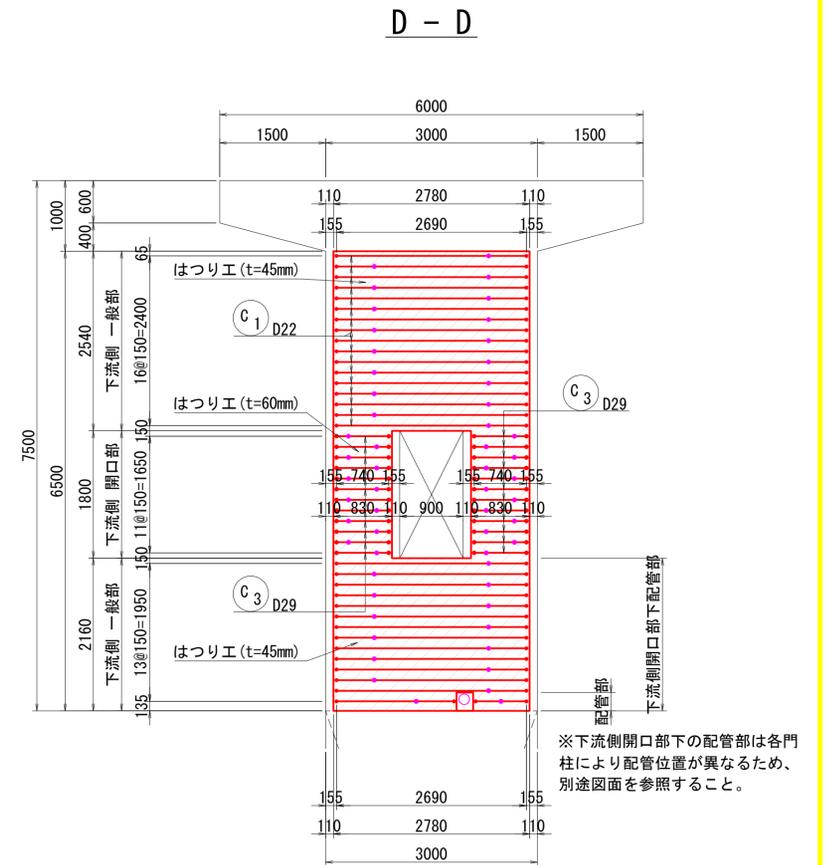
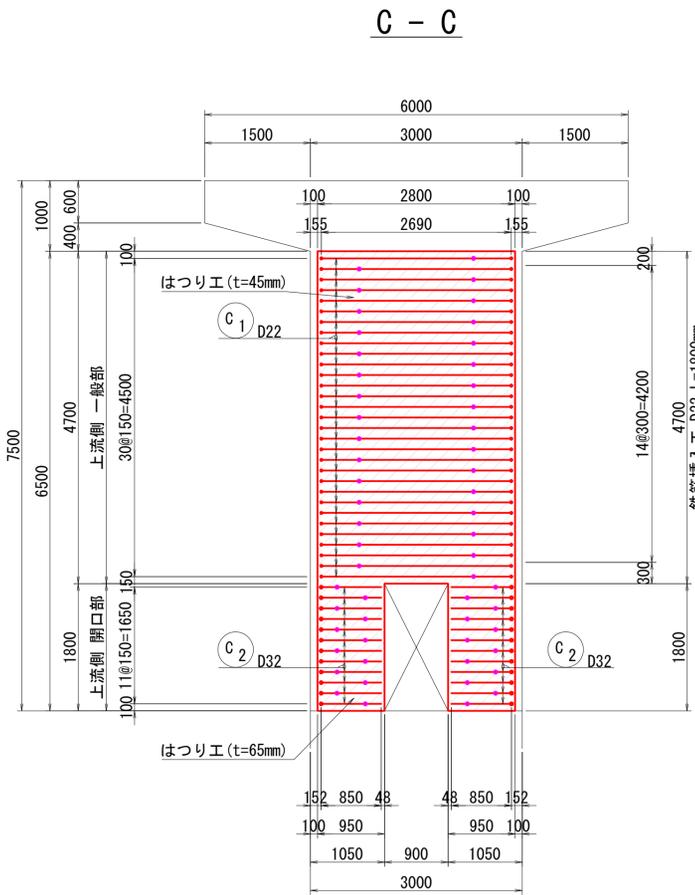
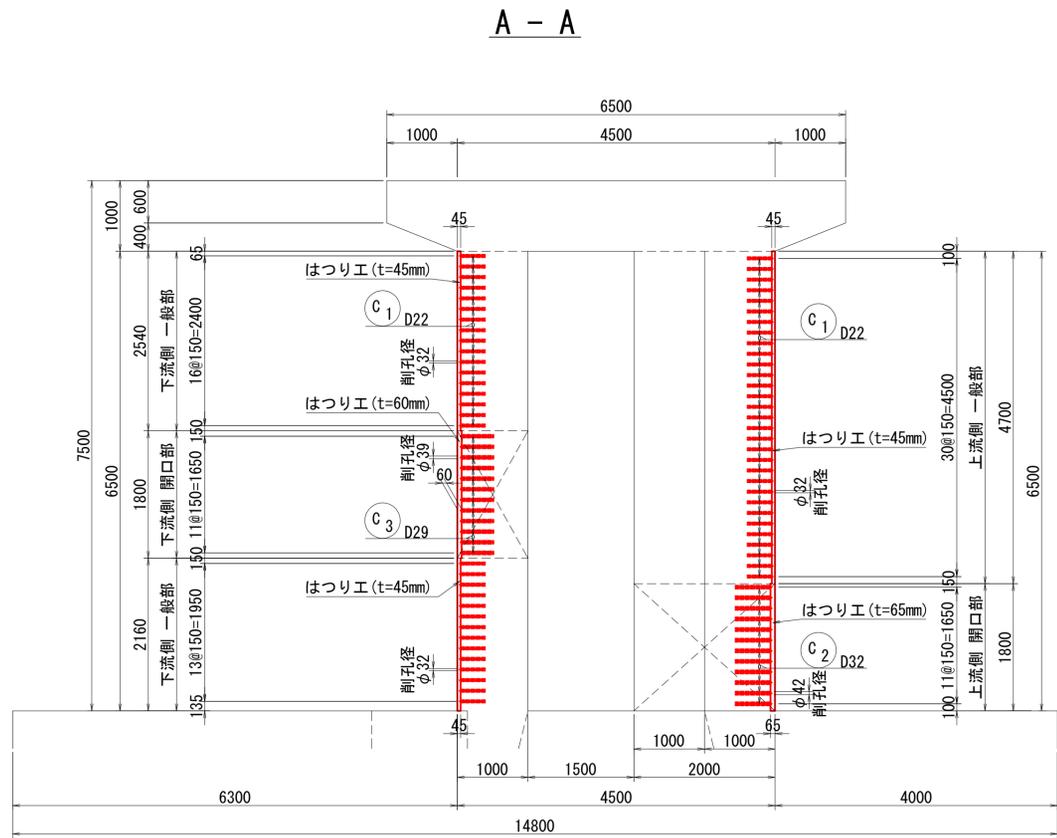
名称 上流閘門(K1・K2堰柱)補強詳細図(4)

登録番号 整理番号

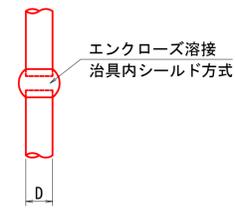
独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所

P1~P7堰柱補強詳細図(1) S=1:50

今切川河口堰 門柱



鉄筋継手工



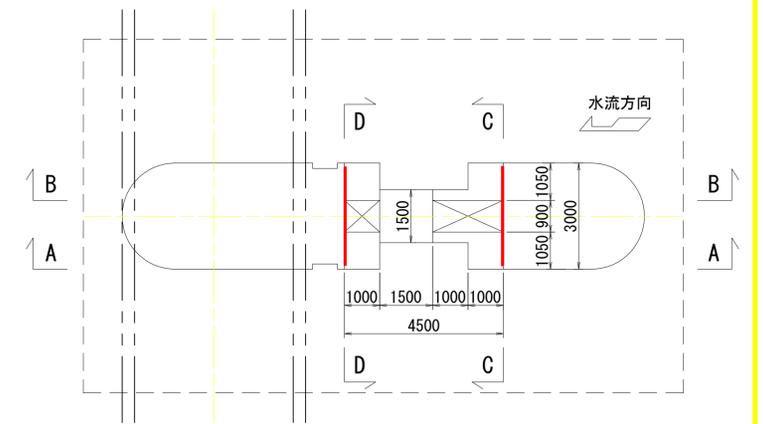
凡例

	ポリマーセメントモルタル吹付工・はつり工
	鉄筋継手位置(エンクローズ溶接)

特記事項

- 施工は鉄筋探索を行い、既設鉄筋の位置を確認の上で行うこと。
- 削孔位置が既設鉄筋等に干渉する場合は、施工時に現場にて削孔位置を調整すること。
- 削孔位置を調整する場合は、以下の鉄筋間隔を守り、位置の調整を行う。
 - 門柱のポリマーセメントモルタル吹付工のせん断補強筋は、150mmピッチの間隔内に設置すること。また、既設軸方向鉄筋端部と端部から2番目の軸方向鉄筋との間に設置するものとし位置を調整すること。
- アンカー筋設置の際は、既設鉄筋に損傷を与えないよう注意すること。
- 工事に支障となる添加物等は撤去を行い、補強対策後は適切に復旧すること。
- せん断補強筋の継ぎ手はエンクローズ溶接とし、継ぎ手位置は千鳥配置とすること。
- 鉄筋の加工は現地で計測後に行うこと。
- 「PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案) 2023年5月」に規定されている材料及び施工方法と同等品以上とすること

KEYPLAN



【構造細目】

- 削孔位置：軸方向鉄筋の真ん中で壁外からラウンド
- 削孔径：鉄筋径+10mm
- 削孔長：L=15・D
- 鉄筋かぶり：最小かぶり14mm、軸方向及び横方向鉄筋以上 (PP工法)
- 既設Co取壊し範囲：吹付工法の必要かぶり厚

今切川河口堰

業務名 河口堰門柱耐震対策工事 (仮称)

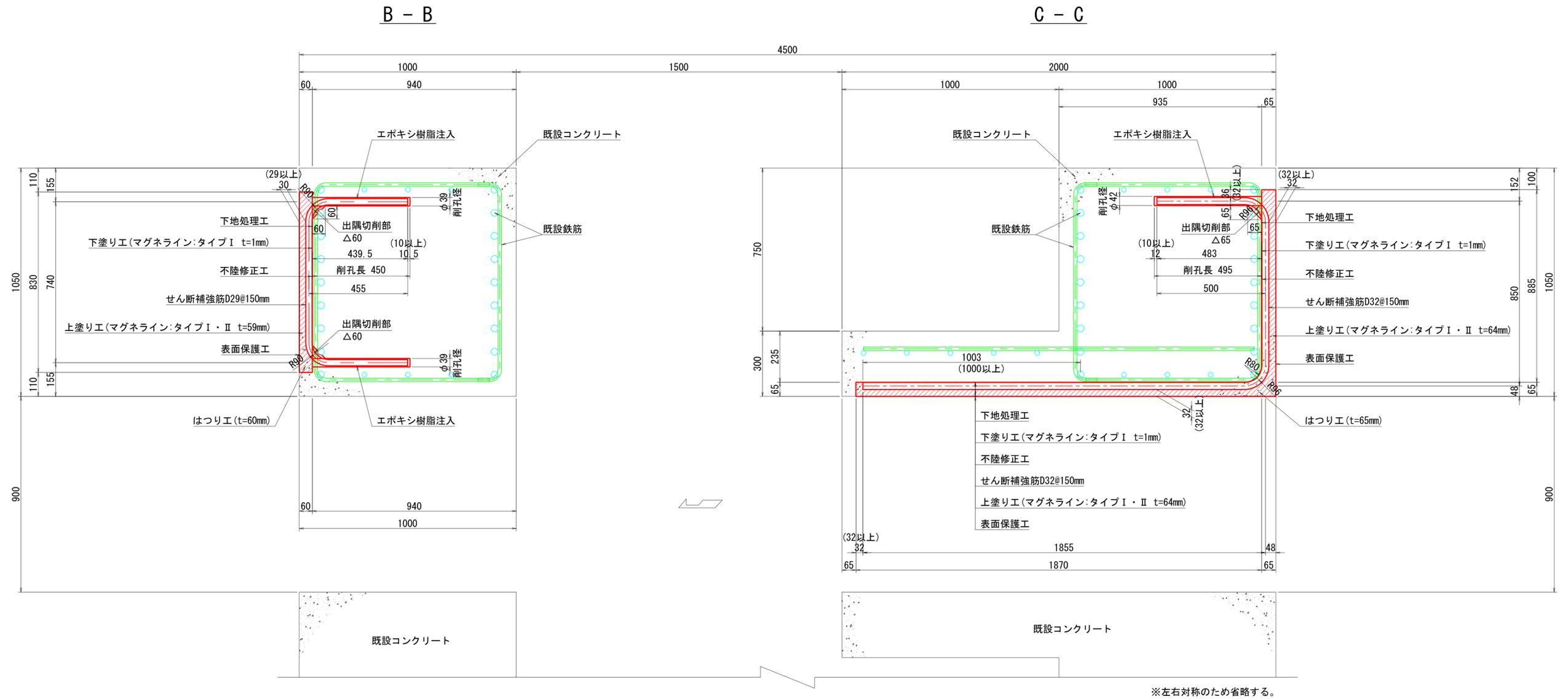
名称 P1~P7堰柱補強詳細図(1)

登録番号 整理番号

独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所

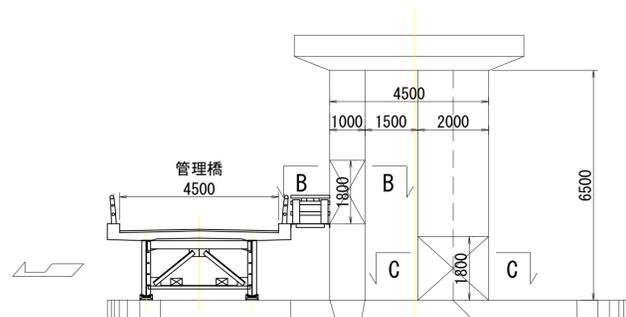
P1~P7堰柱補強詳細図(3) S=1:10

今切川河口堰 門柱一般部



※左右対称のため省略する。

KEYPLAN



特記事項

1. 施工は鉄筋探査を行い、既設鉄筋の位置を確認の上で行うこと。
2. 削孔位置が既設鉄筋等に干渉する場合は、施工時に現場にて削孔位置を調整すること。
削孔位置を調整する場合は、以下の鉄筋間隔を守り、位置の調整を行う。
・門柱のポリマーセメントモルタル吹付工のせん断補強筋は、150mmピッチの間隔内に設置すること。また、既設軸方向鉄筋端部と端部から2番目の軸方向鉄筋との間に設置するものとし位置を調整すること。
3. アンカー筋設置の際は、既設鉄筋に損傷を与えないよう注意すること。
4. 工事に支障となる添加物等は撤去を行い、補強対策後は適切に復旧すること。
5. せん断補強筋は既設コンクリート面に取付金具を用いて固定すること。
6. せん断補強筋の継ぎ手はエンクローズ溶接とし、継ぎ手位置は千鳥配置とすること。
7. 鉄筋の加工は現地で計測後に行うこと。
8. 『PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案) 2023年5月』に規定されている材料及び施工方法と同等品以上とすること

【構造細目】

削孔位置：軸方向鉄筋の真ん中で壁外からラウンド
削孔径：鉄筋径+10mm
削孔長：L=15・D
鉄筋かぶり：最小かぶり14mm、軸方向及び横方向鉄筋以上（PP工法）
既設Co取壊し範囲：吹付工法の必要かぶり厚

今切川河口堰

業務名 河口堰門柱耐震対策工事（仮称）

名称 P1~P7堰柱補強詳細図(3)

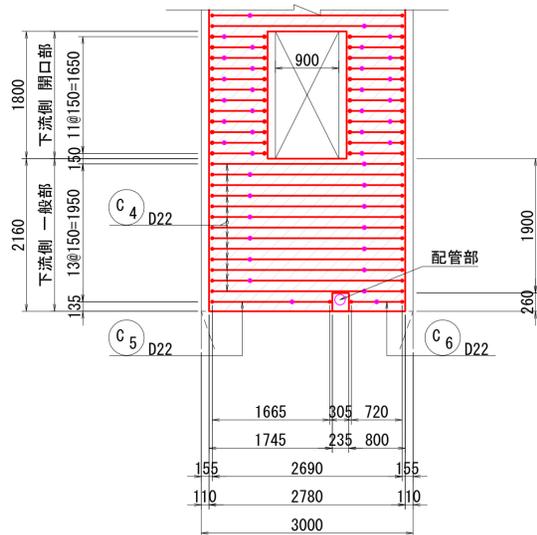
登録番号 整理番号

独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所

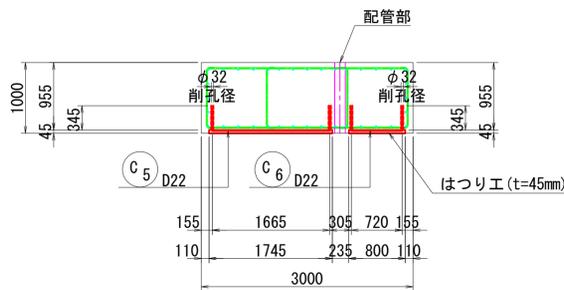
P1~P7堰柱補強詳細図(4) S=1:50

今切川河口堰 門柱下流側開口部下配管部

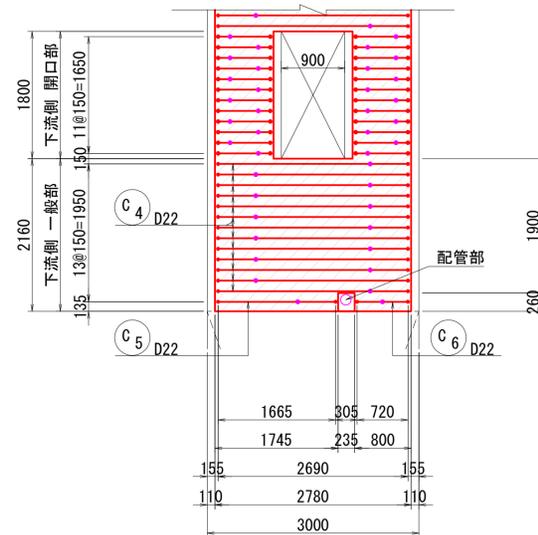
P1堰柱
正面図



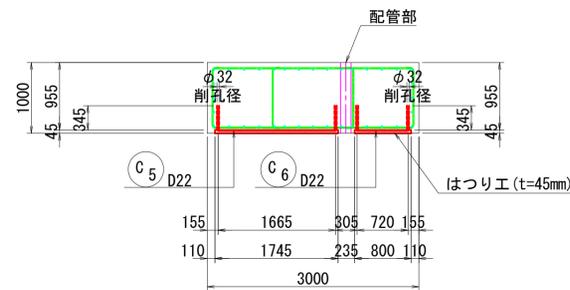
平面図



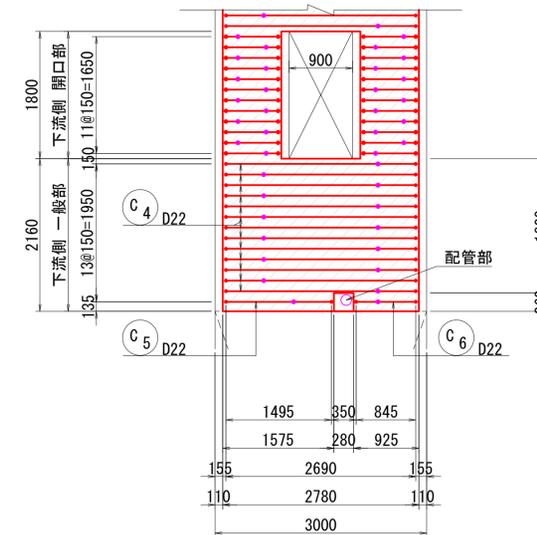
P2堰柱
正面図



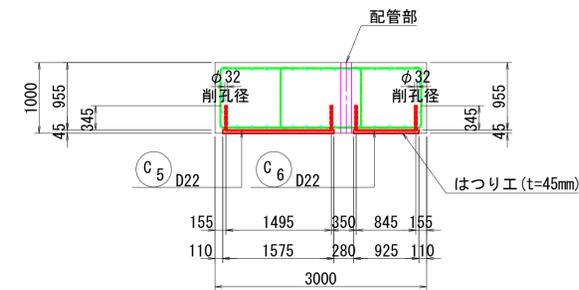
平面図



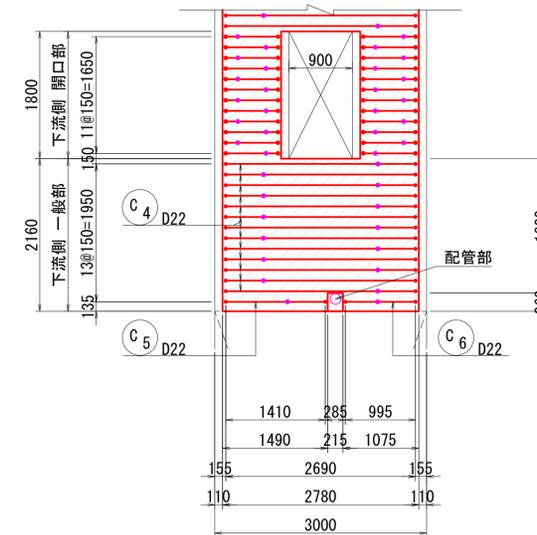
P3堰柱
正面図



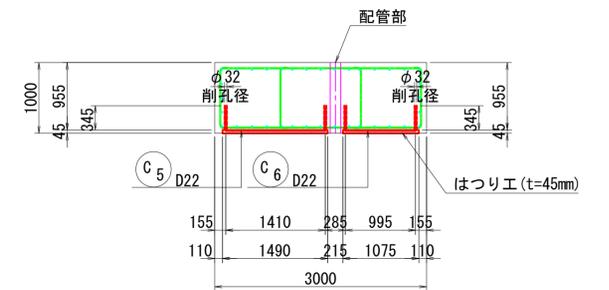
平面図



P4堰柱
正面図

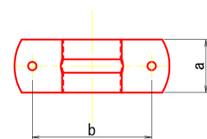


平面図

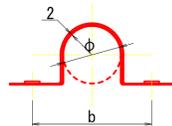


主筋取付金具詳細図

正面図



断面図

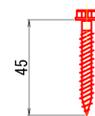


(配置間隔 @2000程度)

寸法表

タイプ	a	b	φ
D19用	25	53	21.7
D22・D25用	25	56	27.2
D29・D32用	25	65	34.0

Pレスアンカー
φ6×L45



特記事項

- 施工は鉄筋探査を行い、既設鉄筋の位置を確認の上で行うこと。
- 削孔位置が既設鉄筋等に干渉する場合は、施工時に現場にて削孔位置を調整すること。削孔位置を調整する場合は、以下の鉄筋間隔を守り、位置の調整を行う。
 - 門柱のポリマーセメントモルタル吹付工のせん断補強筋は、150mmピッチの間隔内に設置すること。また、既設軸方向鉄筋端部と端部から2番目の軸方向鉄筋との間に設置するものとし位置を調整すること。
- アンカー筋設置の際は、既設鉄筋に損傷を与えないよう注意すること。
- 工事に支障となる添加物等は撤去を行い、補強対策後は適切に復旧すること。
- せん断補強筋は既設コンクリート面に取付金具を用いて固定すること。
- せん断補強筋の継ぎ手はエンクローズ溶接とし、継ぎ手位置は千鳥配置とすること。
- 鉄筋の加工は現地で計測後に行うこと。
- 「PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案) 2023年5月」に規定されている材料及び施工方法と同等品以上とすること

※配管の位置及び径は、現地踏査時に計測したものであるため、工事に先立ち配管位置等を計測の上、耐震補強工事を行うこと。

凡例

	ポリマーセメントモルタル吹付工・はつり工
	鉄筋継手位置(エンクローズ溶接)

【構造細目】

削孔位置：軸方向鉄筋の真ん中で壁外からラウンド
削孔径：鉄筋径+10mm
削孔長：L=15・D
鉄筋かぶり：最小かぶり14mm、軸方向及び横方向鉄筋以上 (PP工法)
既設Co取壊し範囲：吹付工法の必要かぶり厚

今切川河口堰

業務名 河口堰門柱耐震対策工事 (仮称)

名称 P1~P7堰柱補強詳細図(4)

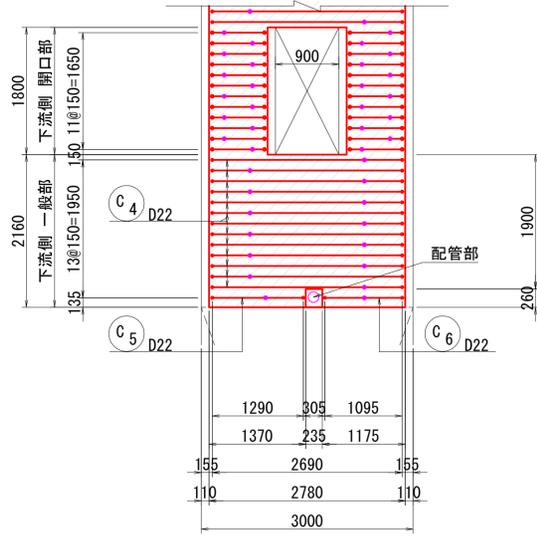
登録番号 整理番号

独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所

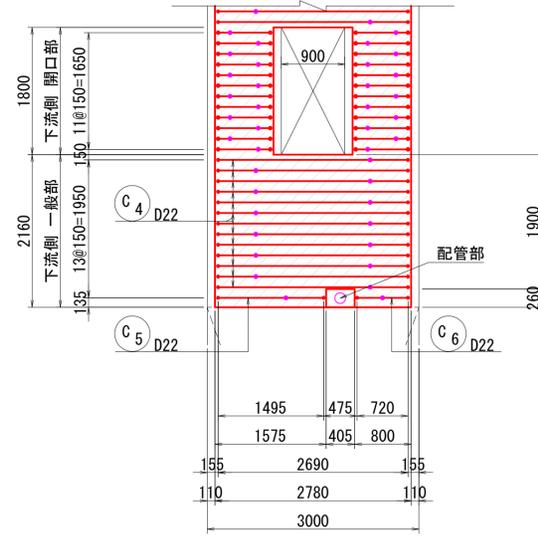
P1~P7堰柱補強詳細図(5) S=1:50

門柱下流側開口部下配管部 今切川河口堰 門柱

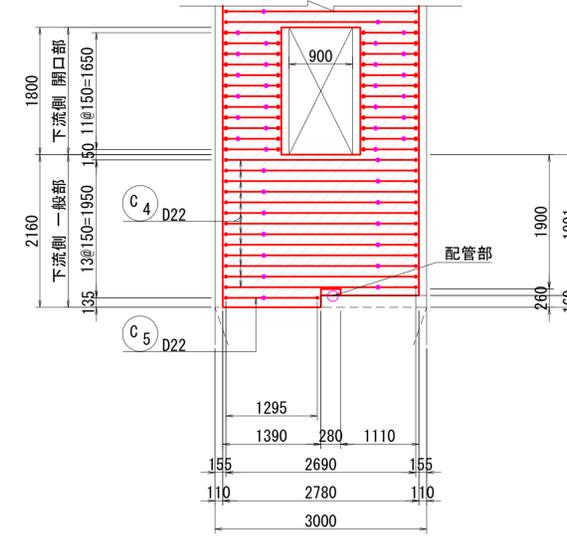
P5堰柱
正面図



P6堰柱
正面図



P7堰柱
正面図



凡例

	ポリマーセメントモルタル吹付工・はつり工
	鉄筋継手位置(エンクローズ溶接)

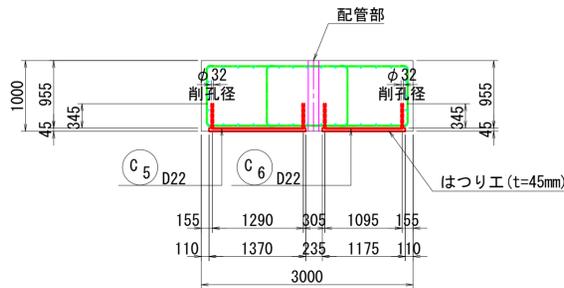
【構造細目】

- 削孔位置：軸方向鉄筋の真ん中で壁外からラウンド
- 削孔径：鉄筋径+10mm
- 削孔長：L=15・D
- 鉄筋かぶり：最小かぶり14mm、軸方向及び横方向鉄筋以上（PP工法）
- 既設Co取壊し範囲：吹付工法の必要かぶり厚

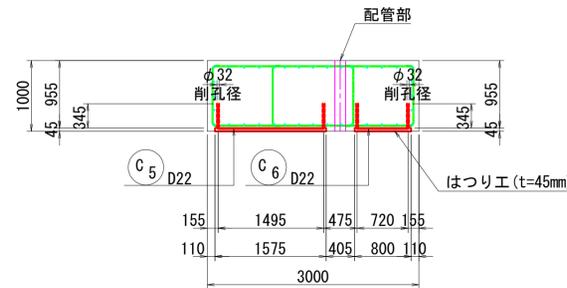
特記事項

- 施工は鉄筋探査を行い、既設鉄筋の位置を確認の上で行うこと。
- 削孔位置が既設鉄筋等に干渉する場合は、施工時に現場にて削孔位置を調整すること。削孔位置を調整する場合は、以下の鉄筋間隔を守り、位置の調整を行う。
 - 門柱のポリマーセメントモルタル吹付工のせん断補強筋は、150mmピッチの間隔内に設置すること。また、既設軸方向鉄筋端部と端部から2番目の軸方向鉄筋との間に設置するものとし位置を調整すること。
- アンカー筋設置の際は、既設鉄筋に損傷を与えないよう注意すること。
- 工事に支障となる添加物等は撤去を行い、補強対策後は適切に復旧すること。
- せん断補強筋は既設コンクリート面に取付金具を用いて固定すること。
- せん断補強筋の継ぎ手はエンクローズ溶接とし、継ぎ手位置は千鳥配置とすること。
- 鉄筋の加工は現地で計測後に行うこと。
- 「PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案) 2023年5月」に規定されている材料及び施工方法及同等品以上とすること

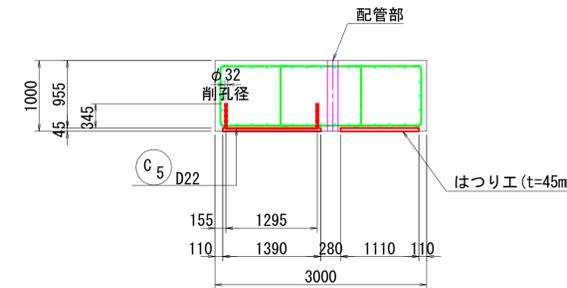
平面図



平面図



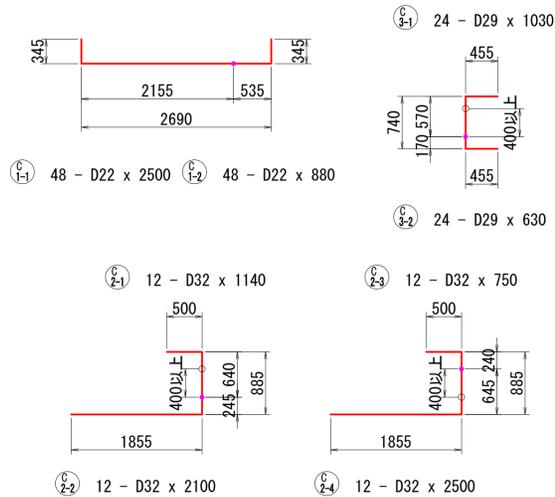
平面図



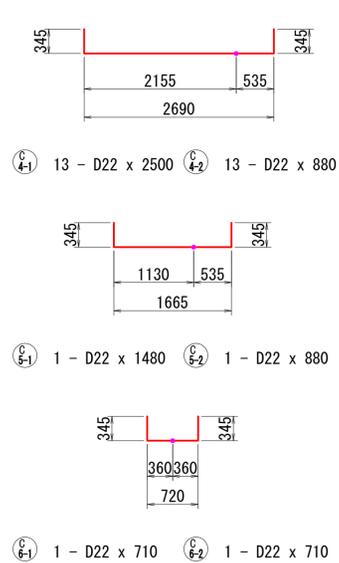
鉄筋加工図

門柱下流側開口部下配管部

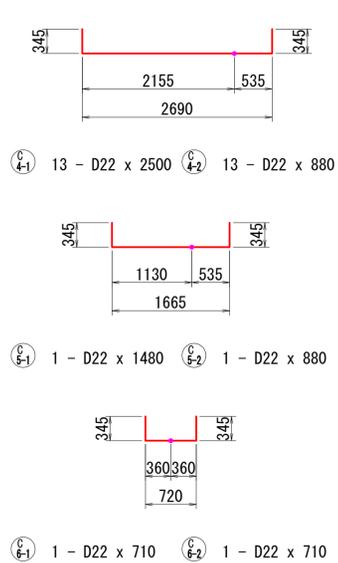
P1~P7堰柱共通



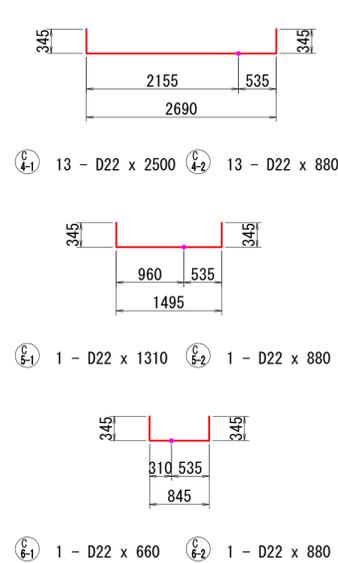
P1堰柱



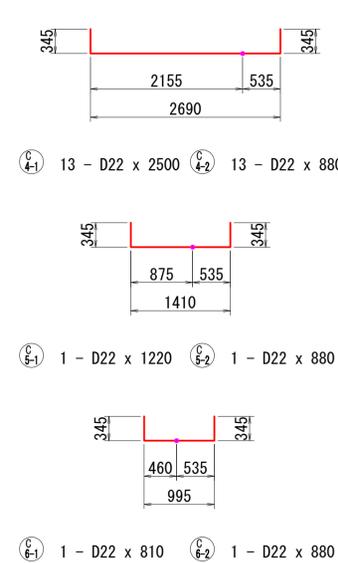
P2堰柱



P3堰柱



P4堰柱



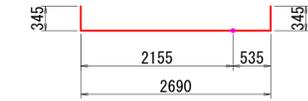
今切川河口堰

業務名	河口堰門柱耐震対策工事（仮称）	
名称	P1~P7堰柱補強詳細図(5)	
登録番号		整理番号
独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所		

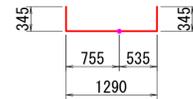
鉄筋加工図

門柱下流側開口部下配管部

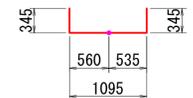
P5堰柱



④-1 13 - D22 x 2500 ④-2 13 - D22 x 880

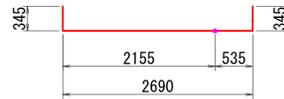


⑤-1 1 - D22 x 1100 ⑤-2 1 - D22 x 880

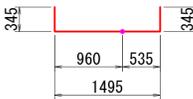


⑥-1 1 - D22 x 910 ⑥-2 1 - D22 x 880

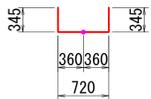
P6堰柱



④-1 13 - D22 x 2500 ④-2 13 - D22 x 880

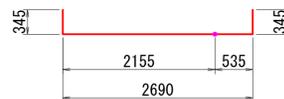


⑤-1 1 - D22 x 1310 ⑤-2 1 - D22 x 880

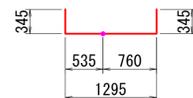


⑥-1 1 - D22 x 710 ⑥-2 1 - D22 x 710

P7堰柱



④-1 13 - D22 x 2500 ④-2 13 - D22 x 880



⑤-1 1 - D22 x 880 ⑤-2 1 - D22 x 1110

P1~P7堰柱補強詳細図(6) S=1:50

今切川河口堰 門柱

鉄筋表 P1堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	2500	48	3.040	7.60	365	
1-2	D22	880	48	3.040	2.68	128 (48)	
2-1	D32	1140	12	6.230	7.10	85	
2-2	D32	2100	12	6.230	13.08	157 (12)	
2-3	D32	750	12	6.230	4.67	56	
2-4	D32	2500	12	6.230	15.58	187 (12)	
3-1	D29	1030	24	5.040	5.19	125	
3-2	D29	630	24	5.040	3.18	76 (24)	
4-1	D22	2500	13	3.040	7.60	99	
4-2	D22	880	13	3.040	2.68	35 (13)	
5-1	D22	1480	1	3.040	4.50	4	
5-2	D22	880	1	3.040	2.68	3 (1)	
6-1	D22	710	1	3.040	2.16	2	
6-1	D22	710	1	3.040	2.16	2 (1)	
				D32		485 kg	
				D29		201 kg	
				D22		638 kg	
				合計		1324 kg	
				D32 エンクローズ溶接		24 箇所	
				D29 エンクローズ溶接		24 箇所	
				D22 エンクローズ溶接		63 箇所	

鉄筋表 P3堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	2500	48	3.040	7.60	365	
1-2	D22	880	48	3.040	2.68	128 (48)	
2-1	D32	1140	12	6.230	7.10	85	
2-2	D32	2100	12	6.230	13.08	157 (12)	
2-3	D32	750	12	6.230	4.67	56	
2-4	D32	2500	12	6.230	15.58	187 (12)	
3-1	D29	1030	24	5.040	5.19	125	
3-2	D29	630	24	5.040	3.18	76 (24)	
4-1	D22	2500	13	3.040	7.60	99	
4-2	D22	880	13	3.040	2.68	35 (13)	
5-1	D22	1310	1	3.040	3.98	4	
5-2	D22	880	1	3.040	2.68	3 (1)	
6-1	D22	660	1	3.040	2.01	2	
6-1	D22	880	1	3.040	2.68	3 (1)	
				D32		485 kg	
				D29		201 kg	
				D22		639 kg	
				合計		1325 kg	
				D32 エンクローズ溶接		24 箇所	
				D29 エンクローズ溶接		24 箇所	
				D22 エンクローズ溶接		63 箇所	

鉄筋表 P5堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	2500	48	3.040	7.60	365	
1-2	D22	880	48	3.040	2.68	128 (48)	
2-1	D32	1140	12	6.230	7.10	85	
2-2	D32	2100	12	6.230	13.08	157 (12)	
2-3	D32	750	12	6.230	4.67	56	
2-4	D32	2500	12	6.230	15.58	187 (12)	
3-1	D29	1030	24	5.040	5.19	125	
3-2	D29	630	24	5.040	3.18	76 (24)	
4-1	D22	2500	13	3.040	7.60	99	
4-2	D22	880	13	3.040	2.68	35 (13)	
5-1	D22	1100	1	3.040	3.34	3	
5-2	D22	880	1	3.040	2.68	3 (1)	
6-1	D22	910	1	3.040	2.77	3	
6-1	D22	880	1	3.040	2.68	3 (1)	
				D32		485 kg	
				D29		201 kg	
				D22		639 kg	
				合計		1325 kg	
				D32 エンクローズ溶接		24 箇所	
				D29 エンクローズ溶接		24 箇所	
				D22 エンクローズ溶接		63 箇所	

鉄筋表 P7堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	2500	48	3.040	7.60	365	
1-2	D22	880	48	3.040	2.68	128 (48)	
2-1	D32	1140	12	6.230	7.10	85	
2-2	D32	2100	12	6.230	13.08	157 (12)	
2-3	D32	750	12	6.230	4.67	56	
2-4	D32	2500	12	6.230	15.58	187 (12)	
3-1	D29	1030	24	5.040	5.19	125	
3-2	D29	630	24	5.040	3.18	76 (24)	
4-1	D22	2500	13	3.040	7.60	99	
4-2	D22	880	13	3.040	2.68	35 (13)	
5-1	D22	880	1	3.040	2.68	3	
5-2	D22	1110	1	3.040	2.68	3 (1)	
				D32		485 kg	
				D29		201 kg	
				合計		1319 kg	
				D32 エンクローズ溶接		24 箇所	
				D29 エンクローズ溶接		24 箇所	
				D22 エンクローズ溶接		62 箇所	

鉄筋表 P2堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	2500	48	3.040	7.60	365	
1-2	D22	880	48	3.040	2.68	128 (48)	
2-1	D32	1140	12	6.230	7.10	85	
2-2	D32	2100	12	6.230	13.08	157 (12)	
2-3	D32	750	12	6.230	4.67	56	
2-4	D32	2500	12	6.230	15.58	187 (12)	
3-1	D29	1030	24	5.040	5.19	125	
3-2	D29	630	24	5.040	3.18	76 (24)	
4-1	D22	2500	13	3.040	7.60	99	
4-2	D22	880	13	3.040	2.68	35 (13)	
5-1	D22	1480	1	3.040	4.50	4	
5-2	D22	880	1	3.040	2.68	3 (1)	
6-1	D22	710	1	3.040	2.16	2	
6-1	D22	710	1	3.040	2.16	2 (1)	
				D32		485 kg	
				D29		201 kg	
				D22		638 kg	
				合計		1324 kg	
				D32 エンクローズ溶接		24 箇所	
				D29 エンクローズ溶接		24 箇所	
				D22 エンクローズ溶接		63 箇所	

鉄筋表 P4堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	2500	48	3.040	7.60	365	
1-2	D22	880	48	3.040	2.68	128 (48)	
2-1	D32	1140	12	6.230	7.10	85	
2-2	D32	2100	12	6.230	13.08	157 (12)	
2-3	D32	750	12	6.230	4.67	56	
2-4	D32	2500	12	6.230	15.58	187 (12)	
3-1	D29	1030	24	5.040	5.19	125	
3-2	D29	630	24	5.040	3.18	76 (24)	
4-1	D22	2500	13	3.040	7.60	99	
4-2	D22	880	13	3.040	2.68	35 (13)	
5-1	D22	1220	1	3.040	3.71	4	
5-2	D22	880	1	3.040	2.68	3 (1)	
6-1	D22	810	1	3.040	2.46	2	
6-1	D22	880	1	3.040	2.68	3 (1)	
				D32		485 kg	
				D29		201 kg	
				D22		639 kg	
				合計		1325 kg	
				D32 エンクローズ溶接		24 箇所	
				D29 エンクローズ溶接		24 箇所	
				D22 エンクローズ溶接		63 箇所	

鉄筋表 P6堰柱

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	2500	48	3.040	7.60	365	
1-2	D22	880	48	3.040	2.68	128 (48)	
2-1	D32	1140	12	6.230	7.10	85	
2-2	D32	2100	12	6.230	13.08	157 (12)	
2-3	D32	750	12	6.230	4.67	56	
2-4	D32	2500	12	6.230	15.58	187 (12)	
3-1	D29	1030	24	5.040	5.19	125	
3-2	D29	630	24	5.040	3.18	76 (24)	
4-1	D22	2500	13	3.040	7.60	99	
4-2	D22	880	13	3.040	2.68	35 (13)	
5-1	D22	1310	1	3.040	3.98	4	
5-2	D22	880	1	3.040	2.68	3 (1)	
6-1	D22	710	1	3.040	2.16	2	
6-1	D22	710	1	3.040	2.16	2 (1)	
				D32		485 kg	
				D29		201 kg	
				D22		638 kg	
				合計		1324 kg	
				D32 エンクローズ溶接		24 箇所	
				D29 エンクローズ溶接		24 箇所	
				D22 エンクローズ溶接		63 箇所	

今切川河口堰

業務名 河口堰門柱耐震対策工事 (仮称)

名称 P1~P7堰柱補強詳細図(6)

登録番号 整理番号

独立行政法人水資源機構旧吉野川河口堰管理所